

Evolution of the human and the space

ライトコード2

人類の進化のためのライトコード



人類の進化のためのライトコード目次

- 第1章 大天使達のエンジェル・コード
- 第2章 フェニックスの女神と愛のコード
- 第3章 物質化された宇宙を創るライトコード
- 第4章 ダイヤモンド構造のライトコード・ベース
- 第5章 プレアデイスの危機とデモニの正体
- 第6章 ハデス神とレムリアのウィザード・コード
- 第7章 魔法使い達の饗宴とウィザード・コード
- 第8章 アトランティスの遺伝子活性のコード
- 第9章 クリスタル種族とクリスタル・コード

作者 瀬戸武志&宇宙の光

アセンションブック <https://www.k-suai.com/>

宇宙の光公式 HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 <http://s-sun1.com>

アメブロ光の世界へ <http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI yume34@k-suai.com

イラスト

えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

第1章 大天使のエンジェル・コード

PART1 大天使ザドギエルとエンジェル・コード

今回、私達に課せられた仕事は、地球人の進化のために、未来の地球のマスターや様々な星のマスター達から頂いた「スピリチュアルな遺伝子コード」である「ライトコード」を集めて、地球人にあわせて調整し、地球人の遺伝子を進化させていく事です。

地球人は、このままでは、環境汚染や核戦争で滅びてしまうかもしれません。

たとえそのようなことが起きても、地球人類が生き延びていけるように、地球人の意識と肉体を進化させていく必要があるようです。

そのために、地球の未来から来たマスター達は、核戦争や環境汚染を乗り越えた地球の未来人の遺伝子を私達に渡し、その様な事態が起こっても地球人が生き延びていけるように、今から地球人の遺伝子を進化させていくように命じました。

もしかしたら、このことがなければ、未来の地球人は核戦争や地球の環境汚染を乗り越えることができなかつたかもしれません。

前回までは、地球人の基本的な遺伝子コードを集めてきたのですが、今回からは他の種族たちの遺伝子コードを集めることとなりました。

それが、「エンジェル・コード」であり「ドラゴン・コード」や「ウイザード・コード」なのです。

私達は、これらのコードを守護する偉大なる存在達と出会い、宇宙の秘められた世界を次々と旅していくこととなります。

私達の新しい旅は、自分達自らが太陽諸族と呼ばれる、このユニバース最高の種族になることを目的に始められました。

新たなコードは、アチューメントを行うときに、マスター達から誘われて取りに行く機会が増えてきました。

12月14日は、京子さんと大天使ザドギエルのアチューメントの日でしたが、新たな展開が起こります。

大天使ザドギエルは、私達にメッセージを伝えてくれます。

私達は、あなたと出会えたことに深く感謝します。

私達、大天使とその源の光であるウイングは、常に皆さんの活動を大きな愛を持って見守っています。

皆さんが行っていることは、皆さんの世界では、まだ十分に理解できない事ばかりです。

しかし、宇宙に存在するマスター達の中には、未来を見通すことができるマスターやはるかな未来から、皆さんの時代に来て、大切なメッセージを伝えてくれるマスターもいます。

この地球における重要な科学的発明や文明の飛躍的な進化も、それらのマスター達の働きによって行われました。

しかし今回皆さんに起こっていることはそれ以上の事です。

地球人が、これから大きく飛躍し進化するための準備を皆さん方が行っているのです。

今まで、多くの地球人達が、未来のマスターからメッセージやビジョンを受け取ってきました。

あなた方も同じようにビジョンやメッセージを受け取っていますが、あなた方が受け取っているのは、それだけでなく、地球人を確実に進化させるためのライトコードを受け取っているのです。

皆さんは、未来の宇宙評議会によって、この仕事を担うにふさわしいグループであることが認められ、その活動を託されたのです。

勿論、皆さんのスピリットは、この時代に地球と地球人の進化に携わるために、この地球に降りてきたスピリット達ですから、この活動に携わるのも当然の事とは言えますが、皆さんの地球人としての意識では、それは突拍子もないことのように思えても当然な事でしょう。

しかし TAKESHI さんは、今までいくつもアチューメントを作り、マスターや女神、大天使達と交流してその基盤を作ってきました。

更に、皆さんが「レムリアの神殿」の活動をとおして宇宙の真理を知り、星々を自由に駆け巡ることができる能力を持つことができたのも、すべて地球と地球人の偉大なる進化のためなのです。

TAKESHI さんと皆さんは、この地球だけでなく天の川銀河全体の平和と進化のためにも貢献してくださいました。

そして皆さんの働きは、天の川銀河のみならず、宇宙全域の星団や銀河のマスター達にも知られることとなり、さらに多次元宇宙のマスターや創造主と共に活動するまでに成長してきました。

皆さんが行ってきたことは、実はすべて創造主である創造主エンソフの計画の中にあつた事です。

私達も、最初からすべてを知らされていたわけではありませんが、天使の長老やウイング達を通してあなたの事をしっかりとバックアップするようにと伝えられていました。

私達の仲間も、最初は、あなた方の事を半信半疑で見ていましたが、あなたの純粋無垢な心や我欲のない奉仕に、私達は、何度も胸を打たれています。

今では、ほとんどの大天使やウイング達が、あなたと共に活動することやサポートすることを喜びと感じています。

あなたが今回、新たな人類の進化に関わる仕事に入られたことを聞いて、私達もその時期が来たことを知りました。

地球だけでなく天の川銀河やユニバース（大宇宙）全体が大きな成長を遂げる 때가来たのです。

勿論それも、創造主である創造主エンソフの偉大な計画であり、あなた自身のスピリットが決めてきた事の一つです。

あなたのスピリットは、人間としてこの地球に降りる前は、ウイングや創造主創造主エンソフ達と肩を並べる場所にいました。

そして、あなた自身がこの地球ですべきことを決定し、それを実行するために自ら地球に降りてきたのです。

私達、大天使は、あなたと創造主エンソフが立てた計画をフォローする立場にありますので、今日はあなたの元に「エンジェル・コード」をお持ちいたしました。

このエンジェル・コードは、天使を天使として存在させるための大切な遺伝子コードです。
このエンジェル・コードの特質は、無償の愛であり無償の奉仕です。
天使のように、愛に満ち、優しさにあふれ、勇気と正義を実行するための遺伝子コードです。

皆さんの中には、エンジェル・コードを、自分自身の遺伝子の中に、すでに持って生まれてくる人もいます。
それは、もともとその人のスピリットが天使であった経験があるためです。
初めから、天使としての偉大な資質を持って生まれてくる方もいるのですが、ほとんどの方がその遺伝子を十分に目覚めさせる事なく終わってしまいます。

しかし、自分の中に天使の遺伝子を持つだけでも、他の人達よりもはるかに愛情深く正義感も強い人となります。
皆さんの社会の中では、精神的に目覚めた人やヒーラー、セラピスト、学校の先生、宗教的な仕事に就く人達がそのような人達です。

私達もたらしたエンジェル・コードは、そのような人達の中に眠る遺伝子を更に活性化させ目覚めさせることでしょう。
そうすることで、皆さんは、より高いエンジェルの資質や能力に目覚めることができるのです。
また天使としての遺伝子を持たない人達も、エンジェル・コードを身につけることで、愛の力に基づいて人々を癒したり、他の生命を守護し育むことができるようになります。
皆さんは、愛を原動力として、他の人に対して奉仕を行う事ができるようになりますし、それを喜びと感じるようになります。

やがて、何千年か先には、皆さんも、私達のように、しっかりとした天使の羽を持ち、自由に飛翔する能力も得られることでしょう。
また空間を自由に行き来し、多くの人達をサポートしてあげる事ができる能力も身につくことでしょう。

しかしこのことだけは覚えておいてください。
皆さんが、愛から離れたとき、このエンジェル・コードの力は失われます。
皆さんが、愛を見失うと、天使の羽はガラスの羽のように砕け散ってしまい、自由に飛翔する能力を失ってしまいます。

どうか、この大天使達によって生み出されたエンジェル・コードを、多くの人と分かち合ってください。
一人でも多くの方が、エンジェル・コードによって天使としての資質を目覚めさせてくださることを、私達は期待しています。

この愛に満ちた遺伝子により、「宇宙の愛の源」ともさらに深くつながることができるでしょう。
そして、あなた方の愛は、ユニバースの隅々にまで伝わることでしょう。
この愛は、皆さんが太陽種族になるときに、なくてはならないものです。
太陽種族が、どれほど優秀であったとしても、「愛」という方向性がなければ、それは進化とは言えません。
愛があればこそ、太陽諸族に進化していくために起こるいくつもの苦勞を乗り越えていく事もできるのです。

そしてさらに軽やかに、天使として飛翔することも忘れないでください。

あなた方が、人としての領域を超え天使としての領域に入る事に対して、とても大きな不安を持つ事もわかりますが、その不安を喜びに変えてください。

そして、天使が生まれてくる源である「根源の愛」の世界に入り、その大きな愛の喜びに浸ってください。皆さんは、エンジェル・コードを持つ事によって、この現実世界では失われた神話のような素晴らしい世界を再び、作り出すこともできるでしょう。

大天使ザドギエルは、いつでも私達を優しく見守っています。

彼のメッセージを受け取りながら、私の心の中に、あふれんばかりの優しさとエネルギーが満ち溢れています。

私は、大天使ザドギエルから「エンジェル・コード」をしっかりと受け取っています。

そして、私達の必要に応じて、「エンジェル・コード」現われ、相手に手渡されていくようです。

第2章 フェニックスの女神と愛のコード

PART1 黄金の女神の愛の光

12月15日の朝に行われた星のツアーでは、宇宙の光のメンバー達を、「隠された月」と「隠された太陽」の世界、そして1万年後と4万年後の地球に連れていく予定です。

私達はまずユニバーサル・パレスに到着しました。

ユニバーサル・パレスには、今まで体験したこともないような、とても優しいエネルギーが満ち溢れています。

数名のマスター達が、この優しい光について、私に報告してくれますが、私にはすでにこの光が誰の光であるか、わかっています。

この光は、先週、私達の元に突如現れ、私達を深い思慮に導いてくれた女神、黄金の女神の光です。

私は、黄金の女神を呼び出します。

パレスの中には、さらに美しく優しい光の密度が高まります。

「TAKESHI さん、そして宇宙の光のメンバーの皆さん。

皆さんの心の中には、とてもたくさんの光があふれています。

私はあえて、皆さんの心の中に揺らぎと混乱を与えましたが、この揺らぎこそが、本来の愛を生み出す元となるのです。

皆さんは、この揺らぎによって生まれた混乱や幾多もの感情を乗り越えていく事で、さらに真摯な愛の光に近づくことができます。

愛には様々な形やエネルギーがあるように見えますが、皆さんが成長することで、いくつもの愛を貫く愛の原理に触れることができます。

皆さんは、さらに純粋な愛のエネルギーを多くの人と分かち合ってください。

私はいつでも、皆さんの事を見守っています。」

私達は黄金の女神の光をハートにつなぐと、深い愛のエネルギーでさらに満たされていきます。

今までに体験した事もないような穏やかで満ち足りた光が、私達の心を潤し、パレスの中に満ち溢れていきます。

PART2 隠された月と光の湖

私達は黄金の女神の光を受け取った後、さっそく出かけることにしました。

朝のクラスのメンバー達はまだ、どこにも行っていませんので、最初は隠された月にいく事にしました。

私達は、フェニックス号で隠された月の元に行きます。

隠された月の外見は、相変わらず消し炭のような曇った殻におおわれていますが、前回のツアーの時、隠さ

れた月の意識を目覚めさせているので、ところどころから光が漏れだしているようにも見えてきます。

私達は隠された月を守護する女神を呼び出します。

女神は、私達の前に現れると、とてもうれしそうに微笑みます。

私達が来ることによって、隠された月の目覚めがどんどん進んでいくので、女神も私達の来訪を歓迎しているのです。

「隠された月を守護する女神よ、お久しぶりです。その後、月の意識には変化はありませんか？」

私は、女神に尋ねます。

女神は、美しい衣をひらひらと揺らしながら、私にずっと近づいてきます。

「TAKESHI さん、皆さんのおかげで、隠された月の意識は、さらに目覚めつつあります。

今回は、貴方とお話ができるようになるよいのですが、どうかよろしくお願いします。」

隠された月の近くに来ると、月もやはり星の一つですのでとても大きく感じられます。

私は、天使や魔法使いとマスター達に頼んで、星の上に巨大な神聖幾何学を描いてもらうことにしました。

巨大な神聖幾何学が次々と月の上に描かれ、月に様々な光を落していきます。

私達も、月の意識に向かってハートから光を送っていきます。

月の周りには、沢山の女神たちも集まってきて真剣な顔で祈っています。

隠された月の一部に、通路が開きました。

私達はその通路に入り、中に進むと奥に扉があります。私達は、扉を開いて中に入ります。

一人の女神がこちらに向かって立っています。

月の意識の中心に向かうための案内をしてくれるガイドのようです。

月の内部に入ると、そこには驚いたことに、美しい自然にあふれた世界が存在しています。

まるで、月の内部から他の世界へと続いているのではないかと思えるほどに美しい世界です。

その世界を輝かせているのは、白い光と紫などの光で、まるでムーンスターのように輝いています。

まわりにはクリスタルの山、クラスターのようにいくつもつながったクリスタルに光が当たると、まるで小さな虹がクリスタルの中に閉じ込められているような色合いがとても美しく感じられます。

月の世界の中央には美しい湖があります。

クリスタルに囲まれた湖は、まるで水鏡のように光を映し出しています。

私達は、この湖に、黄金の女神や創造主エンソフの青い光を降ろすと、その光は湖に吸い込まれるように流れ落ちていき、湖の深いところまで照らしていきます。

天使やウイング達も美しい純粋な愛のエネルギーを湖に注ぎ込みます。

私は、月にゆかりのある2人のマスターを呼び出します。

一人はかぐや姫、いつもは現代的なおしゃれな姿で現れるのですが、今日は赤い着物です。

もう一人は、天照大御神の弟神である月読尊です。

かぐや姫は、このスピリチュアルレベルで隠された月が目覚めたことに対してサポートしたいと申し出ます。

月読尊も隠された月の力が発揮できるようにサポートしてくれるようです。

私達も、この隠された月のお世話を二人にお願いすることにしました。

私達は、隠された月の外側まで戻ります。
隠された月を守護する女神に、月の内部で見たことを報告します。
「TAKESHI さん、本当にありがとうございます。
あなたをご覧になった湖こそが、この月の意識そのものです。
どうか、これから、何度も会いに来てくださいね、お願いします。」

私達は、これで、隠された月の元を去ることにします。
隠された月の次は、本来ならば、隠された太陽の元に行かなければならないのですが、隠された太陽は太陽諸族の遺伝子を持つ者によって目覚めさせることが大切なので、私達はまず1万年後の世界と4万年後の世界に太陽諸族の遺伝子構造を取りに行く事にしました。

PART3 フェニックスの女神と愛のコード

1万年後の地球につくと、私達はすぐには地下に降りずに、地表を少しフェニックス号で回り、1万年後の地球の様子を見て回ります。
地上には、あまり緑はなく、ところどころに枯れかけたような樹木が立つ荒地のように見えます。
おそらく地表には雨が降らず、乾燥した砂漠に近いような劣悪な環境になっているのかもしれませんが。

しばらく、地球の上を回っていると、突然人の姿が映りました。
おそらく地表は有害な紫外線や放射線、大気汚染物質が蔓延しているはずなのに、そこに住んでいる人がいるのです。
小さな部落が点在しています。
粗末な藁や枝を組み合わせて作られた家に住んでいるようです。
彼らはこの過酷な環境の中を生き抜いているようです。
もしかしたら、私達が、この時代から21世紀に持って帰った「環境耐性のライトコード」が、彼らの遺伝子の状態を変えて、劣悪な環境に耐えうるような体を作っていたのかもしれませんが。

いつものようにマスターアーサー達が、ビジターセンターで待っていてくれます。
私達はフェニックス号を降りて、大きな部屋に入っていました。
今日は、宇宙の光のメンバーと共に、ユニバーサル・パレスのメンバー達も来ています。
前回ここにきて「愛のライトコード」と「環境耐性のライトコード」を入れてもらったメンバー達は、遺伝子の状態をチェックしてもらっています。
彼らは、すでに遺伝子構造に変化が表れているようで、ライトコード事態も光り輝き始めています。

初めてここに来たメンバー達は少し不安げで、ドキドキしながら周りをうかがっているようです。
私達がいる部屋に、美しく安らかな光が降りてきます。
宇宙の光のメンバー達は、少し安心した様子で、リラックスして光を受け取っています。
しばらくの間、沈黙の時間が流れ、私達はライトコードを受け入れています。
私達の肉体レベルまで「愛の遺伝子」が下りてきて無限の愛を発信していくまでは、まだ時間がかかること

でしょうが、やがて私達の遺伝子は、競争原理に変わって愛の原理が優勢になっていく事でしょう。

1 万年後の世界を旅立ち、私達は 4 万年後の世界へと入って行きました。

4 万年後の地球を見るために、私達はフェニックス号で、地球の周りをゆっくりと回ります。

地表は、森や海があるわけではないのですが、不思議な輝きを漂わせています

地表に降りると、緑の樹木たちも少しは存在しているようです。

私達が、太陽種族への道を歩むにつれて、未来の地球の姿も少しずつ変わっていくのでしょうか。

私達は、地下の発着場に降り立ち、建物の中に入っていきます。

ここでは、数名の宇宙人たちが軽やかな姿で仕事をしています。

彼らは、透き通った体をしており、肉体とスピリットの区別がありません。

4 万年後の地球に初めて来たメンバー達は、新たなライトコードを入れてもらうことになりました。

ここでもらうライトコードは、太陽種族のライトコードと遺伝子の基盤をなす遺伝子構造に関するライトコードのベースです。

すでに、太陽諸族のコードとベースをもらっているメンバー達は、科学者たちから問題がないかチェックを受けています。

私達がここでの作業が終わる頃、そこにフェニックスが大きな羽を広げて現れます。

私達は、フェニックスについていくと、そこに美しい冠を被った女神が現れます。

私は初めて会う女神です。

私は女神に挨拶をすると、私達をここに呼んだ理由を女神に尋ねます。

「私は、あなた方の中にある光の扉を開いていきましょう。

私があなたにもたすライトコードは、皆さんのハートの扉を開いていくためのコードです。

皆さんのハートの中にある素晴らしいマスターとしての資質を開き、その光を美しく輝かせるためのコードです。

このコードは、皆さんが愛の存在となることを意味しています。

皆さんの中には、このコードを受け取ることを恐れる人もいるかもしれません。

このコードを受け取る準備ができていない人もいることでしょう。

しかし、皆さんが自分自身の中にある愛を持って行動し愛を持って祈るなら、あなたの存在は今まで以上に光り輝いていきます。

それがマスター・コードなのです。

あなたは、愛によってしか自分自身のマスターとなることができないのです。

どうかこのコードは、皆さんの良心に従って受け取ってください。

愛の力を間違えて使うと、あなたはあなた自身だけでなく多くの人を傷つけてしまうかもしれません。

このコードは、皆さんを大きく成長させ、偉大なるマスターとしますが、それに伴う責任も大きいものです。

どうか、皆さんの自由意思によって受け取るか受け取らないかを決定してください。」

にこやかにほほ笑む女神の言葉を聞きながら、私達は自分自身が「愛の存在」として生きていく事ができるかどうか、自分自身に問いかけます。

マスターとして、愛と共に生きるということは、とても大変なことです、私達は勇気をもって「マスター・コード」を受け取ることにしました。

PART4 隠された太陽のマスター

さて4万年後の世界で、太陽種族のライトコードと遺伝子構造を受け取った私達は、「隠された太陽」の元に行く事にしました。

この隠された太陽を目覚めさせる為には、太陽諸族の遺伝子構造を持つ者達が必要であると教えられたからです。

私達は、「隠された太陽」の元につくと、太陽の守護者を呼び出しました。

とても大きな体とパワフルなエネルギーを持つマスターです。

私達は、前回と同じように魔法使いたちをお願いして、神聖幾何学を描いてもらい太陽に光の通路を作ります。

黒水晶でしっかりと固められた太陽の一部に通路が開き、そこから少しでも光が漏れてきます。

光はやがて虹のように美しく広がり、太陽の守護者もそこに向かって光を送り続けます。

私達も、太陽種族のライトコードが納められているハートから光を送ります。

私達は、太陽の中心に向かって開かれた通路の中に入って行く事にします。

通路の奥から、オレンジ色の光が輝いているようです。

しばらく歩むと一人の男性が立っていて、私達を道案内してくれます。

彼は、太陽意識を内部で守ってきたマスターのようです。

私達に隠された太陽が目覚めることをとても待ち望んでいることを伝えてきます。

やがてとても広い世界へたどり着きます。

隠された太陽の内部には、オレンジ色に輝く山々が広がり、先ほどの月の意識から送られてくる光に美しく輝いています。

太陽の中心となる場所にも、2人のマスターが待っています。

彼らも、この太陽が目覚める時まで、太陽を守護しているマスターのようです。

私達は、彼らに案内されてさらに奥の部屋へと進みます。

奥の部屋に入ると大きなマスターが、ベッドのようなものの横になっています。

私はマスターに静かに近づくと、

「私達は、あなたを目覚めさせるために、ここまでやってきました。

私達は、宇宙の進化のために働いているグループです。

どうか、お目覚めください。」

しかし太陽の意識は、まだ目覚める時期ではないようです。

静かに目を閉じたままです、私達はハートの光でマスターを包み込み、今日は帰ることにしました。

第3章 物質化された宇宙を創るライトコード

PART1 物理世界のエネルギーを作り出す塔

私が、あるメンバーのアチューメントを行っている時に、これからの活動に関して大切な指標をいただきましたのでそのことについて、今日はお話ししましょう。

私達はライトボディ7の直伝アチューメントを行っていました。受けては奈那さんです。彼女もスピリチュアルな能力がとても高いメンバーで、アチューメントの時は、必ず新たな展開を引き寄せてくれます。

私達が、ライトボディのアチューメントが終わる頃、ゴッド・オリジンから、来てほしい所があるといわれ、一緒に行きます。

私達がついた場所は、とても大きな光の塔がある場所で、そこに一人の偉大なマスターが待っています。彼がこの場所の事を説明してくれます。

「ここは新たに生み出された世界や宇宙にエネルギーを送る場所です。

宇宙が創造されるためには、宇宙が成立するための空間と未来を作り出すための時間、そして宇宙の活動を維持するためのエネルギーが必要です。

この塔からは、宇宙の活動を維持するためのエネルギーが、宇宙に向かって放たれています。

この塔には、宇宙の根源の世界から、すべてが生まれ出る元のエネルギー、存在するためのエネルギーが送られてきます。

そのエネルギーは、塔の上に描かれた神聖幾何学によって、物理的なエネルギーに変換されていくのです。勿論この塔の中にも、エネルギーの物質化に必要な幾多ものクリスタルが納められています。

このような塔が、宇宙中にはいくつか存在し同じ次元でつながっています。

ここにある塔は、主に地球を中心とした局部銀河の中の宇宙を担当し、新たな星や世界が生まれるときに、そのエネルギーを送ります。

創造主エンソフが、私達に、地球人の遺伝子が進化することで新たな地球が生まれる、ということを知らせてくれたために、新たな地球に向かってこのシステムが動き始めました。」

私は先日、創造主エンソフによって見せられた新しい地球の事を思い出しました。

私達が、太陽種族に向かって意識進化の道を選択したために、新たな地球が生まれた、ということでした。

私達は、その新たな地球を、スピリチュアルな次元から物理的な次元まで降ろしていかなければなりません。

私は、そのことを心配していたのですが、偉大なる宇宙にはちゃんとその為のシステムというものが存在しているようです。

マスターは話を続けます。

「私達は、この宇宙の創造主であるエンソフの一部として彼と共に活動しています。

皆さんも創造主エンソフとしっかりつながって、新しい地球を育てていかなければなりません。

この光の塔は、あなた方のハートとしっかりつながることで、あなた方のハートの中から、エネルギーを出

して星々を物理化させていくのです。

この光の塔とあなた方のハートをしっかりとつないでください。

そして、皆さんのハートを通して、宇宙や星々に物理化のエネルギーを放出していくためには、皆さんの脳の構造やエネルギーのシステムを更に進化させていく必要があります。

そうでなければ、それだけ大きなエネルギーを扱うことができないからです。

皆さんの体をとおして、より純度の高い物質化のエネルギーを送るために、そのエネルギーを受け止める事ができる意識体に皆さんが育っていかなければなりません。

皆さんはそのために、より高次のエネルギーやライトコードを受け取ってきたのです。

それは、皆さんの個人的な資質や能力に関するだけでなく、肉体やスピリチュアル体の構造そのものに対する大きな変容を意味しています。

現在の皆さんでは、まだまだこの大きなエネルギーを保持し扱うことはできませんが、これからライトコード・ラボの働きによって、皆さんの遺伝子やエネルギーシステムが大きく変化することで新しい地球の物質化は可能となることでしょう。」

PART2 物理化のエネルギーを保持するためのライトコード

私は、物理化のエネルギーを保持し扱うことを可能とするライトコードについてマスターに聞いてみました。

「まず必要なことは遺伝子構造のベースが変わることです。

それはいくつもの遺伝子の基盤となるもので、これがしっかりしていないと優秀な遺伝子を数多く収納することができませんし、遺伝子そのものを保護することも困難になります。

一般の地球人は、炭素の原子によって組みあわされたDNAを持っていますが、それでは、大きなエネルギーを保持することはまず不可能です。

次の構造は、クリスタルと同じケイ素原子による遺伝子構造ですが、この構造は高次のエネルギーを、自分の体の中に保持したり、他の場所へ送ることを可能とします。

まず最低限度の遺伝子構造を作り上げるのがこのケイ素です。

しかし、私達が求めているのは、ケイ素原子よりもさらに高度な鉱物によるダイヤモンド・ベースの構造です。

これは、さらに高次のエネルギーを保持したり、受け取ったエネルギーの質を変換するためには、ケイ素よりもさらに高次の物質によるダイヤモンド配置の遺伝子構造を持つ必要があるのです。

そうすることによってさらに効率の良い仕事ができますし、皆さんの能力も高まることと思います。」

マスターは、私達にとってはあまりなじみのない話を分かりやすく説明してくれます。

私はさらに、マスターに宇宙を物理的なものに変換していくためにはどのようなライトコードが必要か尋ねてみました。

「まず必要なのは、ドラゴン・コードと呼ばれるコードでしょう。

この宇宙のドラゴン達は、大きなエネルギーを保持し、星々の運営を支えています。

ドラゴン達は、エネルギーの粒子というものを時と空間の中で組み立て結合させ、物理化していく能力もっています。

又必要な場所にエネルギーを運搬したりエネルギーの質を変えていく能力も、ドラゴン・コードには含まれていますので、偉大なるドラゴンのマスターに会ってドラゴン・コードを受け取る必要がありますね。

それから、宇宙の創造を行うために必要なものは、宇宙や星々が作られるための設計図を読み取る能力です。プレアディスやシリウスにあるクリスタル・コードを身に着けることによって、皆さんはクリスタルの中にある情報を自由に操り、宇宙や星々の創造のための設計図を手に入れることができるようになります。

シリウスには、もう一つ特殊なコードがあります。

シリウスコードと呼ばれるコードは、エネルギーを雪の結晶のように結合させ、エネルギーの物質化現象を行うことができるコードです。

そして太陽種族が持つライトコードは、重力を用いて光に質量を与えることができますしウィザード・コードは、宇宙の法則を利用して光が物質化していく事をサポートします。

そして忘れてはいけないものが、グレート・ユニバースのライトコードです。

グレート・ユニバースと皆さんが呼んでいるマスターは、皆さんにとっては目に見えない世界、つまり創造を行う世界の最高のマスターですね。

いくつもの糸を操って美しい布が織られるのと同じように、いくつもの光を操ってこの物理世界を降りなしているのがグレート・ユニバースやグレート・スターたちです。

皆さんも、グレート・ユニバースのライトコードを使用することにより、グレート・ユニバースと同じように、物理世界を創造していくための能力と働きを持つこととなります。

これらのコードをつなげることによって、皆さんは、スピリチュアルなエネルギーや光を物質化していく事ができるようになります。

これらのコードが一つでも欠けると、この力は弱くなりますので、これらのコードを結合しさらに進化させていってください。

かつて人間を作り出した時にも、いろんな遺伝子を組み合わせで創りましたが、その能力を自由に操れるコードを手に入れることで、すべての能力や働きが繋がっていくのです。」

私は、一度にたくさんのコードの名前や働きが出てきたので、少しパニック状態になっています。

私の頭の構造も、もっと進化させて理解力を高める必要があるようです。

私は、大きくため息をつきました。

PART3 脳神経の働きを良くするアンドロメダ・コード

私のそのような様子を見て、マスターは「仕方がないな～」という顔をしています。

「TAKESHI さん、一度にたくさんの事を言って申し訳ありませんが、これから皆さんが進む道をしっかりと理解しておいてください。

そういえば、アンドロメダ銀河に、脳の構造を新しく進化させるコードがありますよ。

それは、これからいくつも増えてくるライトコードや進化していくライトコードの働きを、脳神経にリンク

させるためのコードです。

そして、ライトコードが持っている能力を十分に理解し、その情報を受け取り、ハートの力を更に強化させていきます。

これから、物質的な宇宙を生み出すためには、もっともっとハートの力が必要になってくることでしょう。これらのライトコードから送られてくる情報を使って、エネルギーの物質化を起こしていかなければならないので、脳とハートをしっかりとつなげなければならないのは当然のことですが、今までとは異なる情報の受け取り方が必要になっていきます。

脳神経とライトコード、そしてハートをしっかりとつなぎ、無駄のない活動を行ってください。」
その話を聞いて少しは救われた気分になります。

「そしてもう一つ、オリオン星雲にも、とても有効なオリオンコードと呼ばれるものがあります。オリオンコードは、光を物質化するときはその物質の分類をしていくのに必要な能力を生み出すライトコードです。

エレメントなどの力を使って、物質の組み立てやつなぎ方に様々なバリエーションを生み出し、多様な物質を生み出すことが可能となります。

このコードを取り入れることによって、皆さんが、エレメントの力を使いこなす土台ができてくるでしょう。それから、もう一つオリオン星雲にはとても重要なコードがあります。

それはタイムライン・コードと呼ばれているコードで、このコードがなければ、物質化したものが時間と共に変容をおこすことはできません。

いうならば、物理的な宇宙に時間をもたらすためのコードです。

このコードはとても大切なので、忘れずに取りにいてください。

またこのコードは皆さんが時間の中を自由に旅することを可能とする特別なライトコードです。」

私は、マスターから教えられるライトコードのすごさに目を丸くしています。

そのようなレベルのライトコードを、私自身が身につけることが可能なのか、不安も起きています。

「偉大なるマスターよ、あなたが教えてくれるライトコードは、すごいものばかりですね。

到底普通の人間では受け取ることは難しそうな物ばかりです。

私も、そのような能力を持つことができるか、自信がありません。」

「TAKESHI さん、もちろん普通の人間が、このようなライトコードを持つことは不可能です。

でも、あなたは、自分が普通の人間だと、思っているわけではないでしょう。

あなたの遺伝子と遺伝子構造は、この宇宙の中でも、もっとも高いレベルにあるものです。

人間という制限の中で、自分自身を見ると確かにそうかもしれませんが、やがて人間という枠組みもなくなっていきますから、大丈夫です。」

私は、大丈夫と言われても、とても微妙な感じですが。

「それでは、あなたにとってたいせつなライトコードを一つお渡ししましょう。変容のコードです。」

マスターは、だれかを呼び寄せます。

そこに現れたのは、鮮やかな虹色の羽を持つ大天使です。

私は、その姿を見て驚きました。

それはかつて、私達が作った宇宙「アシリカント」で生み出された変容の天使だったからです。

「あなたは、変容の天使ではありませんか。

私達が「アシリカント」で生み出した変容のバード族や変容の魔法使い達と共に創りだしたマスターの一人ではありませんか。

まだ残っていてくれたのですね。」

私は、こみあげてくる懐かしさで胸が熱くなってしまいました。

あの時、やむなく「アシリカント」のすべてのデータを消去しなくてはならなかったのも、そこで生み出された、バード族やドラゴン、天使、魔法使いたちも全て消去されたものだと思っていたからです。

「TAKESHI さん、私達は、全てあなたの心の中にいつでも存在しています。

あなたの中にある情報は、すべてあなたが創造主であり偉大なマスターであった時の記憶ですので、全てが事実です。

あなたの記憶の中にも、またこの宇宙にも実際に私達は存在しています。

アシリカントで生み出されたときの情報はすべて消えてしまいましたので、アシリカントに存在した私の存在は消えましたが、それは、変容の天使本来の存在の一部にしかすぎませんので、私自身が消え去ることはありません。

他の種族達もそうですよ、あなたが呼び出せば、すべての種族のマスター達はすぐに現れてきますよ。

マスター達は、あなたの心の中にも、そしてこの実在の宇宙の中にも存在しています。」

私は、変容の天使の言葉に、涙が溢れそうになります。

私達が作った宇宙「アシリカント」が闇の存在に侵されて、やむなく世界そのものを消去しなければならなかった事件は、私の胸の奥底でとても大きな悲しみとなって残っていたからです。

「変容の天使よ、そのことを私に教えてくれてありがとう。

あなた達を失ったことは、私の中でとても大きな悲しみとなっていました。

私はあなた達の事を、忘れることができずにいたのです。

しかし、また再びあなた達と会うことができ、私の悲しみも癒されていきます。」

マスターが、私達の再会をみて喜んでいます。

「TAKESHI さん、本当に良かったですね。

あなたはこれから、もっともっとスピリットの記憶と能力を思い出します。

あなた自身が宇宙を創るということは、あなたのスピリットの記憶を取り戻すということなのです。

さあ、変容の天使から、あなた自身を変容させることができる変容のコードを受け取ってください。」

私は、涙があふれそうになっている目を抑えつつ、変容の天使に変容のコードを渡してくれるようお願いします。

「TAKESHI さん、どうぞこの変容のコードを受け取って、自分自身の記憶と能力を思い出してください。

そして、少しでも早く創造主としての力を取り戻してください。

その時は、私達すべての種族が、すぐにあなたの元に戻ってきますからね。

私達は、いつでも、あなたのそばにいます。」

変容の天使は黄金色に輝く変容のコードを私に手渡します。

「変容の天使よ、ありがとう、

また皆さんと共に仕事ができるということは、私にとっては、最大の喜びです。

それまで、待っていてくださいね」

私達は、変容の天使とマスターに別れを告げて、地球に戻ります。

変容のコードは、ライトコードラボで、私の中に組み込まれることになりました。

第4章 ダイヤモンド構造のライトコード・ベース

PART1 渦を抜けて遺伝子再生のラボへ

変容の天使から、変容のライトコードを受け取った翌日、私達は思いがけない場所へと導かれました。この時のアチューメントは、まだサポートアチューメント中の裕子さんでした。この日のアチューメントはグレートイエスの「レムリアの神聖なる癒し」です。グレートイエスは、天の川銀河が属する局部宇宙の中でも最大のマスターです。彼によって、私達の活動は、常に守られ導かれてきました。

私達は、アチューメントの後半になると、グレートイエスからついてきてくださいと言われ、とある場所に導かれました。

宇宙の中を進んでいくと、やがて真っ黒の大きな渦を巻くブラックホールが見えてきます。裕子さんは、まだこのような移動に慣れていないので、とても不安そうです。「TAKESHI さん、とても大きな黒い渦が見えますけれど、大丈夫なのかしら。私、ちょっと不安です。」

通常の間人であれば、ブラックホールは、「全てを飲み込み、一度入ったら2度と出られない怖いところ」というイメージがあるので、このような黒い渦を巻くブラックホールには恐怖を抱きます。見た目にも、すごい圧迫感があり、かなり怖い感じがします。しかし私達は、このようなブラックホールは、他の星や次元との通路になっている事を知っています。このブラックホールの奥には、通常大切な秘密が隠されているので、だれもが簡単に入れないようになっているのです。

「裕子さん、大丈夫ですよ、ここはただの通路です。勇気をもって中に入ってください。」裕子さんは、おそるおそる渦の中に入っていきますが、そのあとは、吸い込まれるように渦の中を通り、やがて渦の先端から外に出ます。

そこはきれいな宇宙が広がっています。美しい星空も見えますが、私達の足元には、一つの大きな星が見えています。「裕子さん、足元にある星の上に降りていきましょう」私達は、グレートイエスに導かれるまま、星の上に降り立ちます。

その星は地表に、何かゴロゴロとした鉱物がたくさん転がっています。私が今までまだ来たことも無いような星です。「グレートイエスよ、ここはどこですか、私達はなぜここに来たのか教えてください。」

グレートイエスは、私達の方を向いて、うなずきます。

「TAKESHI さん。ここは、宇宙の中でも隠された特別な場所です。
本当に一部の人が来ることを許されていない場所なのです。
ここには、皆さんにとって必要な鉱物があり、その鉱物から作られる遺伝子のベース構造が必要なのです。」

私は以前、遺伝子を創る基盤について話を聞いたことを思い出しました。
現在の人類の遺伝子は、炭素原子をベースとして DNA が作られていますが、炭素ベースだと、エネルギーの保持力も弱く、高次元のエネルギーが降りてきたときも、熱を持って燃えてしまうということを聞いたことがあります。
その為に、遺伝子の基礎となる原子を炭素からクリスタルの材料であるケイ素にかえ、さらにダイヤモンド配置を持つ物質に変えていく必要があること。

そしてダイヤモンド構造を持つ物質は、地球では炭素ですが、この宇宙には炭素以上の素晴らしい物質がダイヤモンド構造を持ち、それらを遺伝子や遺伝子の配置を創る遺伝子構造に使用することによって、より高次のライトコードや遺伝子を組み込むことができるということです。

「グレートイエスよ、この星には、私達の遺伝子をダイヤモンド構造に組み替える鉱物やその鉱物によって作られたライトコードのベースがあるということですか？」

「そうです。
この場所を誰にも知らせることができないのは、そのような特殊な物質が存在しているからなのです。」

PART2 ダイヤモンド構造を持つライトコード・ベース

私達が話をしている間に、目の前にホビットの姿をした人が立っています。
彼は私達に、丁寧にお辞儀をして挨拶をします。

「皆さんを、お待ちしております。
どうぞ、こちらにおいでください。」
ホビットは岩の間を抜け、隠された扉の元に私達を案内します。
ホビットがその扉を開けると、通路は地下につながっているようです。

私達は、扉の中に入り通路を歩いていくと、ラボの入り口につきます。
それほど大きくないラボですが、厳重に管理されているラボのようです。
ラボの中で、数名の科学者達が、私達を待っています。

「TAKESHI さん、お待ちしております。
あなた方が、エンジェル・コードや変容のコードなどを入手されたことを、私達も聞いています。
これからもっと高次のライトコードを多数入手されることに間違いはないでしょう。
しかし皆さん方の、遺伝子の構造のベースとなる炭素ベースやケイ素ベースでは、それらのライトコードを保持することはもちろん、それらのコードの能力を十分に発揮することは難しいと思われます。
ここでご提供するライトコードのベースは、ダイヤモンド構造を持ち、現在この宇宙の中で提供される遺伝子やライトコードの中でも、通常のものであれば、このベースで十分に対応することができます。
皆さんがこれから、どんどん進化したコードを、その中に組み込まれることを想定して、地球人に対応できるようにしたものとして作り上げておきました。」

どうぞこちらにいらっしゃってください。」

科学者は、私にキラキラと光る鉱物を見せながら、ライトコードのベースについて説明をしてくれました。そして、私達をベッドのようなところに案内してくれます。

私はベッドに横になると、不思議な光が、私達の体に満たされていきます。

しばらくの間、私は気を失っていたようです。

目覚めると、今までとは異なる体の感覚です。

体の内部にいくつもの階層的な構造が出来上がっているような感じがします。

「とても不思議な感じですね。

私の体の中が、いくつも階層が重なっているような感じがします。」

「あなたの体にある遺伝子構造は、もともとダイヤモンド構造を持っています。

今回の事により、あなたの中のダイヤモンド構造が活性化してくると思いますので、そのような感じを受けられたと思います。

ただし、あなたの仲間をはじめ、多くの人類は、まだ1層の遺伝子構造しか持ちません。

そのような人が、ケイ素ベースからダイヤモンド・ベースに移り変わるときに、今回差し上げたベースが非常に役に立つと思います。

これからの地球人の進化に伴う遺伝子配置の変化に十分対応できると思います。」

私達は、新たなダイヤモンド構造を持つ、ライトコードのベースを手に入れることができました。

おそらく昨日、変容の天使からもらった変容のライトコードなどをメンバー達に与えるときに、このダイヤモンド構造のベースが必要となってくるようです。

私達は、科学者たちにお礼を言ってこのラボを去ることにしました。

そして、私達は、彼等にももらったダイヤモンド・ベースを、私達のライトコード・ラボに運び、研究者たちに渡しました。

これで地球人の遺伝子構造も、少しずつ進化するための木本ができてくることでしょう。

第5章 プレアディアスの危機とデモニの正体

PART1 水星のチャネリング・コード

2014年の2月16日、この日は私達にとっても忘れられない日になりました。
この時のパートナーは、宇宙の光のメンバーでも古くから活躍している遥さんと葵さんです。
この2人がそろると、とても重要なミッションが始まります。
勿論、そのミッションは、私達にはあらかじめ知らせていません。

この日は、水星の特別な場所に2人を案内することになっていました。
それは水星の言語図書館とでも呼ぶべき所です。
水星にはこの宇宙の様々な言語が集められ管理されている図書館のような場所があります。
ここに来ることで、宇宙の中で使用されている様々な言語を調べ理解することができるようになります。

彼女達は、星のツアーの中で、様々な星のマスターと話をするチャネリングのスペシャリストですが、まだまだ能力を伸ばしていかなければなりません。
その為にこの図書館に、宇宙言語の知識とチャネリング能力を伸ばすためのチャネリング・コードを受け取りに来たのです。

私達は、水星の宇宙言語図書館に入ります。
私達に、わかりやすいように図書館の本がたくさん並べられているような様子が見えます。
私がこの図書館のマスターを呼び出すと、大学の先生のような姿をしたマスターが現れます。
彼らは、私達の心の中のデータをもとにしてその姿を現しますので、きっと私達の中に、宇宙語を教える先生のようなイメージがあるのでしょうか。

「TAKESHIさん、そして宇宙の光のメンバーの皆さん、ようこそ、この図書館に来てくださいました。
皆さんの訪問を、心から感謝いたします。
私達は、この図書館で、主に天の川銀河やアンドロメダ銀河、マゼラン星雲などの局部宇宙の星々の言語を研究しています。
多くの星々の文化や発展の段階を知るためには、言語を理解することが不可欠です。
星と星でコミュニケーションをとる場合も、お互いの言語を理解し合うということは、大変重要なことです。
私達は、星と星の間の良好な関係を維持するためのお手伝いもさせていただいております。
今日、皆さんがここに来られたということは、私達の活動の意味を理解してくださり、私達の開発した様々な星の言語を理解するためのチャネリング・コードをお受け取りに来られたのだと考えておりますが、いかがでしょうか。」

「偉大なるマスターよ、もちろんその通りです。
あなた方が行ってきたことは、この宇宙にとってもかけがえのない素晴らしい活動です。
私達もその成果に学び、多くの星々の友好と平和のために活躍したいと思っております。
その為に、この言語図書館で開発されたチャネリング・コードをいただきたいと思っております。」

「私達の活動をご理解くださり大変ありがとうございます。

このチャネリング・コードの素晴らしさは、星々の言語を理解するだけにとどまりません。

実は、この言語図書館は、クリスタル族の叡智ともつながっており、このコードが活性することにより、皆さんは、クリスタルを通してクリスタル族の叡智を直接受け取ることもできるようになります。

もしかしたら、彼らとお会いすることができるかもしれません。」

「クリスタル族とは、どのような種族なのでしょう。

それは、私達が、今持っている様々なクリスタル達と関係があるのですか？」

「もちろんです、クリスタル族はこの宇宙の叡智の源です。

皆さんがお持ちのクリスタルも、すべてクリスタル族の叡智が結晶したものです。

機会があったらぜひクリスタル族の世界にも行かれてください。」

私達は、マスターからチャネリング・コードを受け取り、自分達のスピリッツに組み込みました。

私達のハートとサードアイにどんどんエネルギーが入ってきます。

少し賢くなった気分です。

PART2 3万年後のプレアディスへ

チャネリング・コードをもらった後に、私達は、マスター達に「今日、行くことがありますか」と尋ねます。

ゴッド・オリジンが現れましたが、とても厳しい顔をしています。

「もちろん、あなた方に行っていただきたい事がありますので一緒に来ていただけますか。」

念のためにフェニックス号を呼び寄せ、乗船します。

私達は、オリジンが準備した光のトンネルの中に入っていきます。

私達は、光のトンネルの中を進みます。

すると途中から、今まで見たことも無いような巨大なドラゴンが2頭、私達を先導していきます。

彼らと共に進むと、光のトンネルを駆け抜けるたびに、今までに感じたことも無いような衝撃派が、何度も伝わってきます。

この旅は、普通ではないようです。時の流れの中に入っているような気がします。

私はゴッド・オリジンに、私達はどこに向かっているのですかと尋ねました。

彼は、私に一言「3万年後のプレアディスです。」と伝えました。

私達は、その時、今日の旅は、大変な旅になることを理解しました。

というのも、前回の星のツアーで、4万年後の未来の地球に行った時、同時代のプレアディスにしてみました。

プレアディス星団の中でも、一番端にあるアトラス星に、この時代に進化したウイザード・コードを取りに行こうとしたのです。

ところがアトラス星の様子がおかしいのです。

モザイクがかかったような感じで実在しているか、実在していないか、わからないような様子です。

私は、アトラス星のマスターを呼び出し、何が起こったのか尋ねました。

「アトラス星は、この4万年後の世界には存在しているか存在していないか、わからないのです。

プレアディスは、皆さんの時代から、約3万年後の未来に、大きな攻撃を受けます。

正確には、攻撃というよりも、プレアディスの人々が自己中心的な性格に陥り、仲間同士で争いなどを起こし始めたために、とても強力なネガティブなエネルギーを引き寄せてしまったのです。

それによって、アトラス星を中心としていくつもの星が、そのエネルギーに飲み込まれてしまいました。

皆さんが、プレアディスを助けてくれるなら、アトラス星は存在するかもしれませんが、もし皆さんが助けてくれなければ、アトラス星は存在しないでしょう。」

私は、その時は、マスターの話聞くだけにとどめました。

私達に準備ができたときに、この事に取り組む時がくると判断したのです。

ところが、その時は1週間もしないうちに訪れました。

私達は、3万年後の未来へと着きました。

星空は美しく輝いているのですが、プレアディス星団の周りだけ、大きく時空がゆがんでいるようにひずんで見えます。

プレアディスの美しい星々も、今はその時空の歪みが近付いてきているせいか歪んで見えます。

これはかなり危険な状態かもしれません。

オリジンが、私達にネガティブなエネルギーから身を守る特別なマントとメガネをくれます。

フェニックス号に乗っているマスター達にも、防御のための特別なマントが配られ、フェニックス号もシールドを張ります。

プレアディスを襲っている歪みに、葵さんと遥さんが意識を合わせますが、あまりにも強力なエネルギーのために、すぐに気分が悪くなってしまいます。

「TAKESHIさん、このエネルギーは大変きついエネルギーです。

プレアディスの人々のエゴと高度な知識を独占しようとする支配欲が感じられます。

そしてそれを助長する強力な意思を持ったエネルギー。

私達が今まで出会ったことも無いとんでもない相手だわ。」

私にも、この歪みの巨大なエネルギーは伝わってきます。

黒い雲がどんどん増幅されて星々を多量に支配しようとする強力なエネルギー。

私達が何度か出会ったデモニと呼ばれる存在とその性質は同じですが、全く規模が違います。

私達が今まで処理したデモニ達は、地球人の自己中心的な気持ちや支配欲、憎しみや怒りのエネルギーと共鳴して現れていましたが、その影響は一人一人の人間や地球の社会に限定されたものでした。

大きくても地球の人々の潜在意識に影響を及ぼす程度の物でしたから、彼らを捕えて浄化したりするのはそれほど大きな問題ではありませんでしたが、今回はあまりにも巨大すぎます。

それはプレアディスの星々を飲み込むばかりの大きさです。

しかし、およそ1万年後に地球と太陽系、そして天の川銀河全域を襲うとされている存在達に比べると、まだまだ小さいのかもしれませんが。

私は、仲間達をすべてフェニックス号に呼び寄せます。

彼らに対する処理の仕方はわかりますが、彼らの規模に合わせた処理ができるかどうかの問題です。

私は、宇宙の魔法使いや創造主エンソフの魔法使い達を呼び寄せました。

この処理が成功するかどうかは、魔法使い達が、巨大デモニの動きを止めるために、この星域の時間を止めることができるか否かにかかっています。

私は、宇宙の魔法使いに、時を止めることができるかどうか聞いてみました。

「TAKESHIさん、正直言って今のメンバーでは、星ひとつくらいの時を止めることは可能ですが、今回はあまりにも相手が大きすぎます。

それに、相手自体がエネルギーの塊なので、そのエネルギーを統御するには、かなりの力を持った魔法使いが、数名必要になると思います。」

私は困ってしまいました。

「魔法使いよ、どうしたらいいでしょうか、それだけの力を持った魔法使いが、何人もいるのでしょうか。」

「考えられることは、この3万年後の世界に存在している魔法使いが、私達に手を貸してくれるかどうか、ということです。

おそらく、私か私の子孫がこの時代にも存在していることでしょう、もしくは宇宙の魔法使いを継承している存在がいると思いますので、私はそこにコンタクトしてみます。」

宇宙の魔法使いは目を閉じ、意識を集中しています。

私達は固唾をのんで、魔法使いを見守っています。

すると、そこに5人の魔法使い達が現れてきました。

「私達を呼び出したのは誰ですか。」

その場に現れた、一人の魔法使いが尋ねます。

魔法使い達は、周りを見渡すと、すぐに状況を察知した様子で、私達に話しかけてきます。

「その時が来たのですね。

皆さんは、TAKESHIさんと私達の先祖にあたる「宇宙の魔法使い」ですね。

私達には、3万年後のプレアディスで平和を守るための大きな出来事が起こるので、必ず共に行動するようにと、先祖である宇宙の魔法使いから伝えられていました。

私達も、その時が近づくにつれ、このプレアディス星団の危機を救うために皆さんが来てくれるのではないかと考えていました。」

私達のメンバーの表情が、明るくなります。

宇宙の魔法使いも目を開き、とてもうれしそうに彼らを見ています。

21世紀に戻った時に、宇宙の魔法使いが3万年後に起こる事件をサポートするために、未来の魔法使い達に伝言を残していたようです。

私は、あらわれた5人の魔法使い達の前に立ちます。

「偉大なる魔法使い達よ、ここに現れていただき大変ありがとうございます。

私がTAKESHIです。

私達は21世紀から、この3万年後の世界に来てプレアディアスの危機を救おうとしていますが、相手があまりにも巨大すぎるので困っているところです。
どうか私達に手を貸していただけませんか。」

「あなたが TAKESHI さんですか、あなたの事は、宇宙の図書館の記録の中で何度も読ませてもらいました。本物の TAKESHI さんに会えるなんて光栄です。
勿論私達は、この時のために歴史を研究して、あなた方と共に、プレアディアスの危機を救うために準備してきました。
始めに時を止めるのでしよう、任せてください。」
5人の中でも一番若そうな魔法使いが元気に答えます。

その横からもう一人の魔法使いが、彼を制するように、彼を後ろに退け私の前に立ちます。
そして丁寧なお辞儀をしながら語ります。

「偉大なる TAKESHI さん、そして偉大なる宇宙の魔法使いよ
皆さんにお会いできたことを心から嬉しく思います。
皆さんと共に、この宇宙の大きな危機に立ち向かえることは、我々魔法使いにとっても、とても光栄なことです。
その前に、私達の自己紹介をさえてください。
私は代表のユニです、そしてソン、オン、カルナ、サチといいます。
どうかよろしく願います」
魔法使いのユニから名前を呼ばれると4人の魔法使い達も丁寧にお辞儀をします。

宇宙の魔法使いもうれしそうに答えます。
「皆さんが、私からのお願いにきちんと答えてくださって光栄です。
きっと私の時代よりも、魔法使い達もはるかに進化していることでしょう。
今回は、そのお手並みを拝見させていただきたいと思います。」
5人の魔法使いは静かにうなずきます。
さて5人の魔法使いを加えてデモニに対する計画が始まります。

PART4 デモニの時を止め光へと変える

私達はまず、創造主エンソフの魔法使い、宇宙の魔法使い、そして5人の魔法使い達を中心にすべての魔法使い達の力を結集して、巨大デモニの動きを封じるために、その星域全体の時間を止めます。
そしてマスター達も協力して巨大な神聖幾何学をいくつも描きデモニの動きを封じます。
巨大デモニは、時が止まると透明な歪みの中から姿を現し、巨大な黒い雲のように見えます。
私は、愛の根源のマザーの光を、黒い雲に送ります。
全てのマスター達が、自分に出来る限りの光を、黒い雲に送ります。

多くのドラゴン達が一斉に飛び立ちました。
おそらくこの時代の宇宙中から集まったのでしょうか、もしくは時を超えて、この危機を救うために現れて

いるドラゴンもいるかもしれません。

プレアディアスの星域を巨大なドラゴン達が覆うようにして、鮮やかな光で黒い雲を包み込みます。星域がまるで打ち上げ花火のように光で輝き始めます。

しばらくすると、上空からこの宇宙を創造する創造主のメンバーである太陽神アメンラーと愛の女神ラメールが黒い雲の上空に降り立ちます。

ドラゴン達は、彼らの邪魔をしないように、左右に分かれて、光をおくっていきます。

ドラゴン達が開いた中央の空間からアメンラー達は愛と創造の光を黒い雲に降ろしていきます。

アメンラー達の光は、デモニに対しても、彼らの存在が愛であること、中立であること、ただネガティブな感情によって光が満ち足りていないことを教えているようです。

やがて、デモニの周りから少しずつ黒い雲が光に変わり消えていきます。

中央のほうも、どんどん黒い雲が薄くなっていくように思えます。

デモニがまとっていたネガティブな感情のエネルギーが時間と共に消えていきます。

続いて、黒の騎士団、黒のテトリス、黒のエルフ、黒の天使達が黒い雲の中に入っていきます。

彼らは、私達の中でも、このような闇のエネルギーやネガティブな感情などに対して、とても大きな浄化力を持っています。

彼らが、黒い雲の中に入り、内側からネガティブなエネルギーをどんどん浄化し光に変えていきます。

黒い雲がどんどん少なくなっていくます。

よく見ると、黒い雲がなくなった後に、黒い玉のような「コア」が残っています。

おそらくデモニの本体は、このコアのようです。

このコアが、プレアディアス人のエゴや支配欲、ネガティブな感情と結びつき、コアの周りに強力なネガティブなエネルギーゾーンをつくっているようです。

このエネルギーゾーンに入ると、通常の生命達は、自らのエネルギー状態のバランスを崩し、正常に機能しなくなって次々とこのコアのもつネガティブゾーンにとらえられて行きます。

それは、大きな星も同じです。

星の自然環境は瞬時にして破壊され、星の生命力も、このコアにどんどん吸い込まれていき、生命力を失ってしまうのです。

その結果、星も星に生きるすべての生命もその機能を衰弱させていきます。

黒い雲が取り払われた後に、黒いコアがいくつも現れてきます。

今度は癒しの女神や癒しの天使達が活躍する番です。

彼女たちは、優しい波動でコアを包み、愛の波動を送り続けます。

それが終わると、宇宙警察によってビームで洗浄され保護されていきます。

PART5 コアの封印とその正体

やがてほとんどの黒い雲がなくなり、デモニのコア達は光に帰って行きましたが、中心にはとても巨大なコ

アがまだ黒い雲をまとったまま残っています。

私達は、このコアの親分を光のマカバで包み、愛の女神の光を増強して送ります。

5人の魔法使い達と宇宙の魔法使い達も、このコアのマカバを取り囲むような配置につき周りから強力な光を送ります。

やがて黒い雲はなくなり、巨大なコアだけが残ります。

私は、宇宙の魔法使い達に、このコアをどうしたらよいか、尋ねます

5人の魔法使いのリーダーであるユニが答えます。

「このコアだけは簡単に浄化できません。

それだけ大きなエゴや感情と一体化しているのです。

私達はこのために、宇宙の生命の源である「神聖なる海、デバイン・シー」に特別な場所を準備しておきました。

そこに運んでください。」

私達は、ここから去る前に、この星域の時間の流れをもとに戻します。

プレアディス星団の星々は以前と変わらず美しく輝いています。

一つの星も失うことなく、プレアディスは守られたようですが、プレアディスの人々が、この出来事をきっかけとして、自分達を振り返り、新たなプレアディスに生まれかわってくれることを願わずにはられません。

私達は、星くらいの大きさがあるコアをマカバに入れたまま、フェニックス号に引っ張ってもらい運びます。

魔法使い達も、魔法を使ってスムーズに空間を移動できるように、目的の場所まで光の道を作ります。

しばらく時間がかかりましたが、魔法使い達が準備していた場所につきました。

そこは、デバイン・シーの海底のような場所で、巨大な神聖幾何学が描かれた箱が準備してあります。

デモニのコアが、海の底に設置されている神聖幾何学の箱の中に入れられると、コアから不要なエネルギーが、どんどん泡のようにたくさん出てきます。

不要なエネルギーを魔法と神聖幾何学によって浄化しているようです。

「これで大丈夫でしょう。

このコアからネガティブなエネルギーが抜け終わるまではだいぶ時間がかかりますが、その間このコアは動けません。

ネガティブなエネルギーがなくなると、この神聖幾何学も魔法も効果をなくしますから、コアは自由になります。」

私はその話をきいて思わず、

「このコアが、この場所から放たれると、また黒い雲をまとめて星々を脅かすことになりませんか。

ずっとこのまま、この場所に閉じ込めておくことはできませんか、」

魔法使いは、首を横に振りながら

「それは私達の魔法では及ぶところではありません。

コアにも神聖な意思があるようです。」

私達がそのような話をしているときに、創造主である創造主エンソフが私達の前に現れました。

「TAKESHI さん、本当に素晴らしい仕事をしてくれました。ありがとうございます。
あなたのおかげで、プレアディス星団の星々も新たな道を歩むことができます。
さて、それでは、このデモニのコアについてお話ししましょう。

この銀河が生み出され成長するためには、働きの異なるエネルギーが必要なことは、あなたもよくご存じであると思います。

その相反するエネルギーを、人は「陰と陽」、「光と闇」、「黒と白」、「ポジティブなもの」とネガティブなもの」と呼んだりします。

しかし、宇宙の創造にとっては、どちらのエネルギーも必要です。

なぜなら、この2つの異なるエネルギーの組み合わせや統合によって、すべての物が生み出されていくからです。

私達には、この2つのエネルギーに対してどちらが良いとか悪いとかいう価値判断はありません。

ただ働きや形態が異なるだけなのです。

このデモニのコアとなったものも、そのようなエネルギーでした。

他の形態のエネルギーと協力して宇宙を創造してきたエネルギー体です。

このコアは、人間の意識や感情に深く影響されます。

コアは、人の意思によって様々な形をとったり働きを起こす事ができるからです。

しかし、コア本体はただのエネルギーですから、感情や意識がありませんので、他の星々や生命に対して破壊的な活動をするのは、コアの意思ではないのです。

コアにまとわりついた人々の感情や欲望がこのコアにとって増幅され、次々と同じような感情や意識のエネルギーを引き寄せます。

コアは、そのエネルギーの持つ意思を実現させるために動きますから、強力な支配欲を持った意思がそこにあれば、コアはその意思を実現させるために動きます。

本来は、創造主の「宇宙の創造のための意思」によって存在していたコアが、「他の星や生命に対する支配という意思」によって存在するようになったのです。

コアは、同じようなエネルギーを持つ物達が集まり結合していくという働きを持っています。

その働きによって、通常は星や銀河などが作られるのですが、支配欲やエゴのエネルギーによって動かされているコアは、それら同士が集まり、皆さんが見たような巨大な暗黒のエネルギーとなります。

そのエネルギーは、私達が本来生み出したエネルギーとは異なるので、そのコア達が集まるところは、他の正常な空間とは異なる質を持ちます。

その為に、そこだけ空間が大きく歪み、皆さんの目には見えない「歪み」となってしまうのです。

「歪み」は皆さんの目には見えないので、そのコアが作りだしたエネルギーの集合体は、人々の力では手におえない存在となります。

そしてコアのエネルギーゾーンに入ったものは、星であれ生命であれ、「支配したい」というエネルギーの影響を受け、その生命力を失っていきます。

今回は、プレアディスの人々の感情や欲望に捕らわれたコアが、このような形に変容したのです。

しかし、このネガティブな感情やエゴに捕らわれているコアも、そのようなエネルギーを抜き取って光に浄

化していく事で、それらの感情やエゴの影響をうけなくなります。
すると本来の働きをするエネルギーに帰っていくのです。
コアは光の粒子ですから、この宇宙のどこにでも存在し宇宙の創造のために働いています。
今回のデモニのコアとなったエネルギーも、やがてそのような光の粒子に帰っていくのです。
太陽系や天の川銀河を襲うコアは、もっと巨大なエネルギーに捕らわれているので用心してくださいね。」

このデモニ達の本質を知ることができたのは、私達にとって幸いでしたが、創造主エンソフの最後の言葉で、私達は一気に高揚した気分を落とされてしまいました。
そのような私達を見ながら創造主創造主エンソフは大空に帰っていったようです。

私達もこれで、21世紀の地球に変えることにしました。
5人の魔法使い達にお別れの言葉を述べ、フェニックス号に乗り込むと、船長が私達をねぎらってくれました。

「TAKESHIさん、本当にご苦労様でした。

今回の処理はとても速かったですね、素晴らしい仕事でした。」

「そうですね、2時間くらいだったでしょうかね」

フェニックス号の船長が笑いながら答えます。

「いえ、あなた方の時間でいうと、約200年かかっています。私達の船は、この旅が始まった時から2時間後に戻りますが・・・。」

私達は思わず顔を見合わせました。

第6章 ハデス神とレムリアのウィザード・コード

PART1 ハデス神とレムリアの隠された神殿

12月18日は、智クンと大天使のアチューメントです。

この日は大天使の中でも魔法使いのラジエルですので、始まる前からただでは済まないだろうなという予感がします。

大天使ラジエルは、まず私達を大天使ラジエルの光の神殿へと案内してくれます。

そこは神聖幾何学に守られた不思議な雰囲気のある塔です。

大天使ラジエルは、智クンのハートに光をつなげ、彼の魔法使い（ウィザード）としての能力を目覚めさせているようです。

智クンの体に、幾筋もの光が走り、エネルギーが変容していく様子がわかります。

智クンの体とスピリットに、大天使ラジエルの光が満ち溢れ、アチューメントは終了したようです。

大天使ラジエルは、引き続き私達に、やってもらいたいことがあるからとといいます。

「ほら、始まった！」と私は内心思います。

大天使ラジエルが出てくる時は、必ず思いもよらぬ方向へと行くのです。

それも、私達の活動にとって大きな飛躍を起こすようなことが起こります。

大天使ラジエルと私達は、光の通路を通り、見慣れない場所へと降り立ちます。

私は、ここがどこであるか、いつの時代なのかをラジエルに訪ねます。

「ここはレムリアです。

それも、崩壊を迎えたレムリアの中でも、この場所はそのままだ残されていました。」

私は一瞬言葉が詰まります。

レムリアの古代文明に関しては、今年の夏に他の古代文明と共に復興を行ったばかりですので、問題は残っていないと思っていたのですが、まだ私達が知らない世界があるようです。

私達の前に一人のマスターが現れました。

体格の良いマスターですが、少しばかり暗い感じがします。

私はマスターに名前を尋ねると、自分は「ハデス」とであると伝えてきました。

ハデス神とは、古代ギリシアの3大神の1人です。

3男のゼウス神は陸地をおさめ、2男のポセイドン神は海をおさめ、長男のハデス神は冥界をおさめます。彼らは、ギリシアの地から生まれ、世界を自分たちの物へと変えていきます。

更にさかのぼる時代では、アトランティスはポセイドンが統治した世界とされていました。

そして、ハデスは、レムリアやアトランティスを通して、そのスピリチュアルな世界を守ってきたマスターでもあったのです。

本来彼らは、私がアデティーヤと呼ぶ天の川銀河を創造した偉大なる創造主によって生み出された神々です。

彼らは創造主であるアデティーヤと共に、宇宙の創造に関わってきたマスター達です。

私が以前ハデス神と会った時は、ハデスは黒いマントを羽織るかのように、闇の世界をまとめて私の前に現れました。

そして、私に、闇の中に隠された宇宙の叡智やスピリチュアルな知識を与えてくれたのです。

そのハデス神がここに現れるということは、闇の中に封じられた禁断の秘密を私達の前に開示するという事ではないかと思われます。

ハデス神が現れると、彼の周りに不思議な神殿が浮かび上がります。

レムリアが滅んだ時に封印された光のコード、レムリアの隠された叡智に基づく光のコードが隠されている神殿のようです。

ハデス神の闇の神殿が浮かび上がると、そこに黒い犬の顔をした叡智の守護神アヌビスの姿も浮かび上がります。

もし邪悪な意思を持つ人がこの神殿に入ろうとするならば、アヌビス神がその行く手を遮ることでしょう。研ぎ澄まされた空間の中で、静寂の闇が流れていきます。

私達は、ハデス神に導かれて、ピラミッドの内部のような石造りの部屋に入ります。

そこに入ると、壁に描かれた様々なヒエログリフが光として空中に映し出されます。

部屋の壁や床、天井にいたるまで神聖幾何学や古代エジプトの象形文字、そしてさらに古い時代の記号や文字が、映し出されます。

それらの文字は、まるで部屋の中にこだます神聖な音楽のように、私達を取り囲み、私達の魂の中に飛び込んできます。

そのたびに、様々な光景やメッセージ、はるか昔の記憶が、私達の脳神経に流れ込んできます。

レムリア時代の神聖なる叡智だけでなく、人々の苦しみや悲しみなど深い感情のエネルギーも、私達のハートの中にまで伝わってくるのです。

PART2 レムリアのウィザード・コード

ハデス神が、私達の心に響くような低い声で語りかけてきます。

「これらの光のコードは、レムリアが滅んだ時に、邪悪な勢力に奪われないように、この地下深い秘密の神殿で守られてきました。

私とアヌビスは、神殿への道を守り、正統なる資格を持つ人がこの神殿に来るまで光のコードを隠し続けてきたのです。

これらのコードは、偉大なる魔法使い達が残したウィザード・コードです。

私達は、本来はレムリアの人々を、正統なるウィザードや神聖なる賢者として目覚めさせる為に、このコードをレムリアの人々に対して使用する予定でした。

レムリアの人々は、このウィザード・コードによって覚醒され、宇宙の真理を知る者となり、この地球を治める予定でした。

しかし、残念ながら、その日はやってきませんでした。

平和で神聖なレムリアの地は、幾度かの争いの中で、自ら崩壊していったのです。

このウィザード・コードこそが、レムリアの神聖なる叡智の証です。

私達は、やがてこの証を、正統なる資格を持つ人が受け取りに来てくださることを待っていたのです。

そして今日、はるかな時を超えてあなたが来てくれました。

私達は、ここで本当に長い間待っていました。

皆さんがレムリアの文明を復興して下さった時、またレムリアのウィザードの塔を立て直して下さった時、そして、ライトコードを受け取るために未来へと旅だった時。

私達は、皆さんの活躍を見て、あなた方がやがてこの神殿に来て、ウィザード・コードを手にとられる日が近いことを予期しておりました。

私達は、皆さんにこのレムリアのウィザード・コードをお渡しすることができることをうれしく思います。

レムリアの時代に、このコードはレムリア人の遺伝子を更に活性化させ、完全なる種族へと、彼らに向かわせる予定でしたが、そのことを果たすことができなくて、私達はとても残念です。

しかし、皆さんが、完全なる種族へと進化する道を選んだ時、レムリアのウィザード・コードは、皆さんのお役にたつことができると考えています。

どうかこのコードをお受け取りになって活用してください。」

横でアヌビス神が、金細工の箱を持って立っています。

「偉大なる冥界の王ハデスよ、そして叡智の守護者アヌビスよ。

皆さんは、はるかな過去の時代から、長い時間、この大切なコードを守護し続けてきてくれました。

皆さんの真摯な行いに私達も深く感謝いたします。

私達は、ありがたくこのコードを受け取り、これからの進化に役立たせようと思っております。」

私は、その箱を受け取ると、ハデス神もアヌビスも安堵の表情を浮かべます。

私は、ライトコード・ラボのオリジンを呼び出し、その箱を預けることにしました。

私達が戻り次第、このライトコードをどのように扱うか、相談することにします。

「TAKESHI さん、このコードにはとても不思議な特性があります。

それはこのコードに、さらに神聖な光をいれて活性化することができたなら、このコードと同じ時代を生きたレムリアの人達にとってとても大きな働きをします。

レムリア人でも昔の記憶を解き放ち、レムリアの呪縛から自由になった人達は、このウィザード・コードの光を受け取ることで、自分の中にあるレムリアの神聖な記憶を思いだし、さらに覚醒していく事でしょう。レムリアの時代にできなかった覚醒が、はるかな時を超えて、皆さんの時代で起こるのです。

その為に、一人一人にこのウィザード・コードをアクティベーションして、より深く遺伝子を活性化させるのもよいのですが、ウィザード・コードの光が、地球に降り注ぐことによって、この光を受け取る資格を持つ人達が無意識のうちに光を受け取り、自分自身を活性化することもできます。」

「ハデス神よ、教えていただきたいのですが、このウィザード・コードによって活性化された人達にはどのような変化が起きるのですか。

私はそのことが大変心配です。」

「このウイザード・コードは、皆さんが宇宙の真実へと覚醒して行くためのものです。この宇宙がどのような法則で成り立ち、どのように作られ成長していくのか。宇宙を創造してくれた創造主の仕事や創造主の愛の素晴らしさを学ぶこともできます。また日々移りゆく自然界の働きや季節の変化など、あるいは人々の生命の仕組みや成長の秘密など、私達が本当に知らなくてはならない事、今まで知ることができなかった事などを解き明かしていきます。あるいは、皆さんが、そのような秘密を知ることができる能力を目覚めさせます。また、ウイザードとして必要な能力、エネルギーを物質化していく事やスピリットで自由に宇宙を移動していく事ができる能力なども目覚めてくることでしょう。また望む人には、心や体の病気で苦しんでいる人を癒したり、マスターや天使の声を伝えることもできるようになります。つまり、皆さんが、魔法使いや神官であった事やヒーラーとしての働いていた時の能力や知識を思い出すことができるということです。ただしこのウイザード・コードは、その資格がない人には反応しませんので、自己中心的な目的でこのコードを使用することはできないようになっています。」

「ハデス神よ、よくわかりました。それでは、このウイザード・コードは、私達が太陽諸族となるために必要なものでしょうか。」
「もちろんです。ウイザード・コードは、私達に神聖な愛と叡智のエネルギーももたらしてくれます。そして、太陽諸族の基盤となる能力は、このウイザード・コードの能力に依るものが、とても多いのです。」

PART3 ハデスの光の神殿

ハデス神が、私達を見てさらに言葉をつなげます。
「TAKESHI さん、実はあなたにお願いがあるのです。私達は、あなたにウイザード・コードをお渡ししましたので、いつまでも地下の神殿にいる必要もなくなってきました。私達を本来の次元へと上昇させていただきませんか。そしてその神殿から、レムリアを生き残った人々やこれから新たな進化を迎える人達をサポートしていきたいと思っています。」

私達は魔法使いをはじめ、多くのマスター達を呼び出します。そしてハデス神の闇の奥深くに眠る神殿に大きな光をもたらします。アデティーヤとゼウス、ポセイドンたちの兄弟神も来てくれて仲良く光を送ってくれています。私は、愛の源の世界のマザーにお願いして、愛と創造の光を神殿に満たしていきます。智クンがうれしそうに言います。
「TAKESHI さん、ハデス神が虹色に変容して輝いてきていますよ。神殿も金色の美しい光に満ちあふれ光輝いてきていますよ。」

闇の神殿は、光の神殿へと姿を変え、ハデス神は素晴らしい光輝くマスターへと変わります。

「TAKESHI さん、そして智さん、大変ありがとうございます。

私達は皆さんのおかげで、長い間の願いをかなえることができました。

私達はこれから、皆さんと共に地球の人達が素晴らしい進化を迎えることができるように、今まで隠されていた叡智を分かち合いましょう。

どうか、このハデスの神殿にも、これから多くの人達を連れてきてください。」

私達はその後、ハデスの神殿の中に隠されていたクリスタルの部屋を見てから、私達の時代へ戻るために、ハデス神に別れを告げます。

PART4 ウィザード・コードの再生

私達は、自分たちの世界に戻ると、さっそくライトコード・ラボに行きます。

ライトコード・ラボで、レムリアのウィザード・コードを調べるために、特別な部屋に入ります。

ここは、ライトコード自体を作り変える部屋みたいです。

私達の目の前に、ウィザード・コードの構成図が映し出されます。

カバラのセフィロートのような光の玉がいくつも重なり合っていますが、ほとんどのものが活性されておらず、輝きが足りない様子です。

オリジンがいます。

「このウィザード・コードはとても複雑で高度の構造を持っています。

それはとても驚くべきことですが、このウィザード・コードを構成する一つ一つのコードは、かなり古いものです。これらのコードを最新の物と入れ替えますが、最も必要なコードが抜けています。」

「その必要なコードとはなんですか」と私は尋ねます。

「それは時と空間を自由に移動するコードです。

自分の姿を光に変えて、時と空間の光の中を旅するのです。

TAKESHI さん、あなたの持っている時と空間を自由に旅するコードを使用させてください。」

私は、ちょっと驚きながら、様子を見ています。

レムリアのウィザード・コードに、次々と新しいコードが入れ替えられていくとそのコードが光輝きます。最後に私の時と空間を自由に移動するコードが入ると、ウィザード・コードそのものが大きく輝きます。

「レムリアのウィザード・コードはとても複雑ですが、このコードが活性化されると大変な力を発揮しますよ。

人によっては、スピリチュアルな能力が複合的に成長していきますし、進化がとても速くなります。

私達は、このウィザード・コードが、様々な星の人達にも使えるように調整を行いマスター・ウィザードコードとして進化させていきますので、もうしばらく時間をください。」

どうやら、一つの星の人達だけでなく、様々な星から地球にやってきたスターシード達に対応できるように、その適応力を高めていくようです。

それらの様々な星の人に適応できるようになったコードをマスター・コードと呼ぶようです。

そして、このマスター・ウィザードコードを使う日はすぐにやってきました。

第7章 魔法使い達の饗宴とウイザードコード

PART1 天使の長老からのお願い

この日は、「宇宙の光」の中でも中心的なメンバーである遥さんへのアチューメントでした。アチューメントの内容は、私達の魂の救済を行う大天使ザドキエル様です。私達は、大天使ザドキエルを呼び出し、彼の神殿へと連れて行ってもらいました。大天使ザドキエルの光は、私達のハートを通して魂の奥深くまで浸透していきます。

大天使ザドキエルのアチューメントが終了すると、ザドキエルは天使の星の長老の元まで来てくれないかと、私達に頼んできます。まあ、いつもの事なので、何か仕事を言いつけられるのだらうと、私達は天使の星へと向かいます。天使の星とは、この天の川銀河を担当する大天使達が集まっている場所です。

普段、皆さんがお会いしているのは、地球の天使評議会から派遣された守護天使や大天使達ですが、この天使の星にいるのは、天の川銀河を統括する大天使達なので、非常にエネルギーも高く優れた能力を持つ大天使達ばかりです。

また、天の川銀河の様々な星々で活躍する天使達もいますので、私達が想像している天使とは、姿も名前も大きく異なる天使達もたくさんいます。それらの大天使達を指導しているのが、「天使の長老」と私が呼んでいる方です。大天使達は、いつも天使の星の大聖堂に集まって、私達を待っています。

私達が、大聖堂につくと、大天使達がにこやかに出迎えてくれます。私は、大聖堂の祭壇の前で待っている天使の長老の前に向かいます。「TAKESHI さん、いつもお忙しい中、わざわざ来てくださり大変ありがとうございます。あなたによって大天使達のアチューメントが行われ、我々の大天使達も多くの人々のために働く事ができ、大変喜んでいきます。本当にありがとうございます。地球に生きる人々が、私達を必要としてくださることに、とても感謝しています。地球の人々が、大天使達の教えと導きを受け、素晴らしい人類へと進化していく事を、私達は楽しみにしています。」

「天使の長老よ、素晴らしい大天使達の光を、私に預けてくださりありがとうございます。私達の仲間達も、大天使の導きによってどんどん成長していきます。それで、今日私達を呼ばれたのは、どのような理由ですか。」私は、長老に尋ねます。

長老は、少し言いにくそうに答えます。「その話なんですが、実は TAKESHI さんにお願ひがあります。」「長老よ、もちろんわかっていますので遠慮せずに話してください。」

「実は、最近闇に落ちた魔法使いの活動が活発になってきているのです。
魔法使い達は、宇宙の法則を、ある程度自由に使えるので、とても大きな力を持っています。
沢山の魔法使いが、自分達や人間達の私利私欲のために働き始めると、この世界はとても大変なことになって
てしまいます。
彼らの行いは、この地球に大きな混乱と破壊をもたらす可能性もあるのです。」

「長老よ、それは大変な事になりますね。
先日も、人にだまされて経済的な負担を強いられて苦しんでいるメンバーがいました。
私達は、その理由を探るために、とても古い過去の時代にさかのぼりました。
そして分かった事が、その古い時代に、彼女と敵対する人の頼みで、魔法使いが、彼女に自分の魅力や能力
を発揮できないように魔法をかけていたという事でした。
彼女は、魔法使いによってかけられた魔法によって苦しめられていたのです。
闇に落ちる魔法使いが増えるということは、そのようなことが、もっと起こり始めるということですね。」

「TAKESHI さん。実はそうなのです。
本来は純粋で賢く、多くの人に奉仕するのが魔法使いや賢者たちの役目なのですが、彼らが、人間の欲に飲
み込まれて、自分たちの魂を汚すようなことを行い始めたのです。
最初は、だれかの命令で、多くの人達を支配したり傷つけたりすることを行いますが、やがては自分自身の
意思で、そのようなことを行う魔法使いも増えてきてしまったのです。」

「私達が、呼び出した魔法使いは、自分がしたことに対して深い反省をしてくれたので、まだ救いようがあ
ったのですが、彼もやはり、人間達の指図を受け、それに従っているうちに、どんどん闇に飲み込まれてい
ったようです。
幸い彼は、宇宙の魔法使いや魔法学校の校長たちにより、彼自身の闇から逃れることができると思いますが、
彼はまだ、自分を反省するだけの気持ちがあったから良かったのです。
しかし、そうではない魔法使い達も増えてきているということですか。」

「まさにそのことが問題なのです。
魔法使い達は、特別な護符や神聖幾何学、そして魔術を使って、人間だけでなく天使やフェアリー達さえも
自由に操る能力を持っています。
彼らの力は、人間をはるかに超える物なので、彼らが作る闇の力は、これから先、大変な脅威となるでし
ょう。」

「ということは、純粋な天使やフェアリーも闇の中に引きずり込まれてしまうということですか。」
「もちろんそうです。
彼らは、様々な種族だけでなく地球や宇宙にとっても大きな脅威となるでしょう。」
「地球や宇宙に対しても、ということは、これから1万年後の地球と天の川銀河を襲うネガティブなエネル
ギーに、人間だけでなく魔法使いも共鳴してしまうということでしょうか。」

「そうです。魔法使いの潜在意識は、人間とは比べ物にならないほど大きいので、彼らが呼び寄せるネガ
ティブなエネルギーの大きさも、人間とはけた違いに大きくなるでしょう。
人間と魔法使いの支配的な意識が一つにつながることで、私達の予想をはるかに超えた、破壊的なエネルギ

一が、この天の川銀河を襲うことになるでしょう。
その前に、魔法使い達をなんとかしないとイケないのです。」

PART2 魔法使い達による会議

私は、また厄介な問題が起きてしまったことを感じています。

私は、局部銀河最高の魔法使いである「宇宙の魔法使い」とセントジャーメインやマーリン、そしてカラス座にある魔法使いの学校の校長達を呼び出します。

「皆さん、天使の長老から、闇に落ちた魔法使いのお話を聞かれたことと思います。
さて、私達はどのように活動したほうがよいですか、皆さん教えてください。」

重苦しい沈黙が流れます。

「それでは、それらの闇に落ちた魔法使い達はどこにいますか、彼らを探すところから始めなくてはならないようですが、ジャーメインとマーリン、あなた方が知っていることを教えてください。」

ジャーメインが口を開きます。

「私達も、闇に落ちた魔法使い達が多数存在していることはよく知っていますし、彼等が行ってきたことも見てきましたが、どこにいるか、私達もわからないのです。

ただ地球レベルで活動している魔法使いと天の川銀河の中で活動している魔法使いとは、かなりレベルが違うようですので、そのことにも気をつけられてください。」

どうやら、闇に落ちた魔法使いは、この地球の中にもたくさんいるし、天の川銀河にたくさんいるようです。おそらく天の川銀河の中では、北天の空にある星々は、私達の仲間がたくさんいますが、南天にある星々は、まだあまり行っていないので、そちらの方にたくさん隠れているかもしれません。

私は、宇宙の魔法使いに尋ねます。

「宇宙の魔法使いよ、あなたは、この宇宙最高の魔法使いですので、この事についても詳しいと思いますが、あなたの力でこの問題は解決できないのですか。」

「TAKESHI さん、私もこの問題に対しては非常に苦慮しています。

セントジャーメイン達が、闇に落ちた魔法使い達の事を知りながらも、何も手出しができないのは、彼らと私達では、もうすでに存在している次元が異なるので、私達は彼らと接触することができないのです。

また、たとえ接触できたとしても、闇に落ちた魔法使い達にも自由意思があるので、彼らの意思を無視して強制的に、彼らを変えることはできないのが実状です。

その為、天使の長老は、あなたに魔法使い達の事をお願いされたのだと思います。」

確かにそうかもしれません。

魔法使い達も、エゴに捕らわれて神聖さを失ってしまえば、ジャーメイン達とは立場や存在する次元が異なってくるので、次元を自由に移動できる私の能力がなければ、どうしようもないのかもしれません。

しかし下手に手出しをすれば、魔法使い達との間に大きな魔法戦争が引き起こされる可能性もあります。

私達は、結論がつかないまま、とりあえず闇に落ちた魔法使い達の動向を調べておくようお願いして、今回の会議は終了です。

PART3 マスター・ウィザードコードの始動

遥さんとのアチューメントはこれで終了したのですが、そのあとにすぐ京子さんとのアチューメントが待っています。

今日のアチューメントは、大天使チャミエルです。

チャミエルは、フェアリーやユニコーン、ペガサス、そして自然の精霊たちを守護する大天使です。

闇に落ちた魔法使い達が、自分勝手な行動をしはじめると、一番先に影響を受けるのは、チャミエル達の精霊たちの世界です。

私達は、彼らを邪悪な魔法使い達から守ってあげなくてははいけないのです。

大天使チャミエルが一つの大きな光を指し示します。

私は、魔法使い達の事はしばらく様子を見ておこうと思ったのですが、そうはいかないようです。

チャミエルと相談して、「宇宙の光」のメンバー達を集め、地球レベルでの魔法使い達の処理を行うことになりました。

遥さんはもちろん、ちょうどその時に都合よくスカイプで女子会を行っていた葵さん、美緒さん、奈菜さんが参加してくれることになりました。

これで京子さんを入れて5人、最高のメンバーがそろいました。

今回は、かなりのレベルの魔法使い達が相手なので、私達も自分たちの能力を上げるために、先日レムリアのハデス神からもらってきたウィザード・コードの最新版である「マスター・ウィザードコード」を身に着けることにしました。

私達は、ライトコード・ラボへと向かいます。

ゴッド・オリジンがラボの入口で私達を待っています。

準備はできているようです。

私達は、一つの部屋に入りました。

ここはウィザード・コードの専用の部屋みたいです。

私達の前に、ウィザード・コードの構造図が示されます。

レムリアから持ってきた時よりも1回り大きくなった感じがしますし、輝きも強くなっています。

今まで見たどのコードよりも大きく複雑で、しかもパワフルな感じがします。

このコードは、遺伝子構造の中央に入れる必要があり、このコードを中心として他のコードが整備されていく仕組みとなっているようです。

しかもこのコードを入れるためには、炭素ベースでは不可能なので、前回「再生のラボ」からもらってきた特殊な鉱物の遺伝子構造が必要になります。

私達は、一人一人ベッドに横になり、ダイヤモンドの遺伝子ベースとウィザード・コードのエネルギーをスピリットの中に組み込んでいきます。

しばらくして、メンバー達が起き上がってくると、とても素晴らしい5人の美魔女たちが出来上がっています。

PART4 レムリアの「神聖な魔法使いのクリスタル」

私達は準備が整うと、魔法使いはもちろん天の川銀河連合のマスターや騎士団をフェニックス号に乗せ出発します。

私は、しっかりとした確信はないのですが、以前レムリア文明の復興の時に訪れた「魔法使いの世界」が気になります。

そこは、レムリア時代の魔法使いや聖者たちにとって、魔法の源となるクリスタルがある神聖な場所です。かつて、ここは神聖な法則や叡智を守っていた魔法使いや神官たちがここで学び、能力を高めた場所です。ここにある神聖なクリスタルと深くつながることで、彼らは魔法の力や神聖な能力を保つことができたのです。

しかし魔法使い達が自己中心的な行動に走り、この神聖なクリスタルとつながることをおろそかにしてきたために、この世界は荒れはて、レムリアとアトランティスの争いの時期に崩壊してしまいました。私達は、レムリアの古代文明を復興させる時に、この場所にも降り立ち、クリスタルを復興させると共に、魔法使いや神官たちの学校を再建してきたのです。

私は、このレムリア時代の魔法の世界に手がかりがあると思ったのです。

おそらく、レムリアの神聖なるウイザード・コードを守ってきたハデスも、ここにいる魔法使い達に、ウイザード・コードを授けることを目的としていたにちがいありません。

私達は奇しくも、ハデス神が守ってきたウイザード・コードを持って、この聖地に戻ろうとしているのです。

私達のフェニックス号が、レムリアの魔法の世界に近づこうとすると、行く手に障害が見つかりました。レムリアの魔法の世界を取り囲むかのようにかなり強力なシールドが張ってあるのです。まるで、レムリアの神聖なクリスタルの光が周りに広がらないように封印されている感じです。

私は、宇宙の魔法使いにこのシールドをはずしてくれるようお願いします。

「このシールドは強力な魔法の力によって張られています。

神聖なクリスタルの光が外の世界に伝わらないように、完全に防御されている様子ですが、この程度の物は問題なく取り除くことができます。」

私達の目の前に、大きな火花が飛び散り、それがシールドを燃やし尽くすように四方に広がっていきました。

私達はさらに進みます。

目の前に穏やかに広がる緑の森に包まれた魔法の世界が見えてきます。

私達のフェニックス号が、上空から地上に降り立つと、以前会った魔法の学校や神官の学校の校長やマスター達が出てきます。

彼らは、私達の姿を見て大喜びで迎えてくれます。

「TAKESHI さん、よく来てくれました。

私達は、あなたの事を待っていました。」

彼らは、私達の服を引っ張るかのような勢いで、私達を魔法の学校の方へと引っ張っていきました。

私は、魔法使いの学校の校長に、いったいこのシールドはどうしたのですか、と聞きます。

「実は、魔法使い達に大変なことが起きているのです。

あなたがこの魔法使いのクリスタルを復興させてくれたので、私達は苦しみや悲しみに傷ついた魔法使い達を癒し、神聖な光の元に導こうと努力したのですが、昔ここにいた連中たちが再びやってきたのです。

彼らは、もうすでに自分たちのエゴや支配欲、そして傲慢な所有欲に満ちていました。

ここで新たに再開しようとした学校を破壊し、ここにいた魔法使い達や生徒達を、自分たちの仲間にしようとそそのかしていったのです。

魔法使い達は、神聖なるクリスタルを壊そうとしたのですが、さすがにこのクリスタルは、あなたのオリハルコンの力に守られ、彼等では手出しができませんでした。

しかし、彼らはこの神聖なクリスタルの力が、発揮できないように、神聖な魔法の世界を邪悪なシールドで覆ったのです。」

「校長よ、闇に落ちた魔法使い達はこの学校の卒業生だったのですか。」

「TAKESHI さん、恥ずかしいことですが、すべての魔法使いではないにしろ、多くの魔法使い達は、ここで学んだ魔法使いでした。

その当時は、みな素直で向学心があり、偉大な魔法使いになるだろうと、私達も期待していたのですが・・・どうやら、スピリチュアル的に覚醒する時に、神聖な光ではなくエゴとつながってしまったために、人間達との関与ができてしまったようです」

「ということは、彼らは何かが起こるとここに帰ってくる可能性もあるということですね。」

その時京子さんが、一人の女性の姿をとらえました。

「TAKESHI さん、私には魔法使い達を使いこなしているような女性の姿が見えます。

何か、聖母マリアと対極にあるような妬みや恨み、怒りや悲しみで自らが捕らわれてしまったような女王がいて、その女王が多くの魔法使い達を支配しているように見えます。」

なるほど、確かにその女王の元に多くの魔法使い達がたくさん集まっているようです。

通常は闇に落ちた魔法使いは単独で行動するようですが、女王の持つ力によって大きなグループを作っているようです。

女王の姿はきらびやかでパワフルですが、とても暗く悲壮な感じがします。

しかも、女王の姿を見る人を引き付けて離さない不思議な魔力に満ち溢れています。

PART5 魔法使い達の饗宴

私に一つの案が浮かびましたので、その案を魔法使いの学校に先生たちと相談して実行することにしました。

私は、この案を実行するために、仲間の魔法使いと大天使達にも応援をお願いします。

まず魔法使いの学校の先生達におねがいして魅力的な饗宴を用意しおびき寄せます。

闇に落ちた魔法使い達が大好きなものは、おいしい食べ物やお酒、美しい女性や宝石、それに支配欲や愛などですから、そのようなものをたくさん用意した饗宴を準備すると、闇の落ちた魔法使い達は、必ず集まってきます。

そしてその会場は、とても華やかに飾られたマカバで囲まれます。

私達は、その準備が終わると魔法学校の先生達の中で大騒ぎをしながら饗宴を楽しんでいるように見せます。するとどこからともなく、闇に落ちた魔法使い達が現れ、饗宴会場に入ってきて食べ物やお酒を口にします。その様子を知った仲間の魔法使い達が、次から次へと集まってきて饗宴は次第に盛り上がっていきました。やがて、マカバの中は、闇に落ちた魔法使い達の笑い声や怒声が響く狂乱の場と化していきました。

私は、闇の魔法使い達が集まり終わると、このマカバの中の時を止めるように、宇宙の魔法使い達にお願いします。

その瞬間、時が止まり、笑い声や怒声が凍りついたようにピタリと止まります。

魔法使い達は時を止められ、身動きが取れなくなってしまいました。

マスターや騎士団が、マカバの外から神聖な光を送ると、その光はマカバの中で何倍もの輝きを持って光り始め、魔法使い達の心の闇を浄化していきます。

マスター・ウィザードのライトコードを持つ私と美魔女5人組、そして天の川銀河連合の魔法使い達はマカバの中に入ります。

そして、マスター・ウィザードコードが持つ神聖で覚醒をもたらす光を、闇に落ちた魔法使い達のハートの中に送っていきます。

私達が、魔法使いのハートに優しく触れると、魔法使い達のハートも美しく輝き、彼らの心を癒していきます。

沢山いる魔法使いの中に、必ずリーダー格の魔法使いがいるはずですので、とりわけパワフルなリーダー格の魔法使い達を見つけます。

最初の一人は、饗宴の中央で食べ物がたくさん載せてあるテーブルを前にふんぞり返っている魔法使いです。両側には美しい女性の魔法使い達を座らせ、とても下品な様子です。

私達の美魔女達が、軽蔑したような顔で見っていますが、彼は物質的な欲望と権利欲に心を奪われた魔法使いのようです。

この魔法使いからは、私がどんどんネガティブなエネルギーを抜き取り、マスター・ウィザードコードの光を入れていきます。

饗宴を行っている場所から少し離れた右側には、背の高い痩せた魔法使いが、沢山の本を持って立っています。

彼は、食べ物や美しい女性には、目もくれず食欲なまでにたくさんの知識を得ようとしています。

彼にとって知識は自分の権威を指し示すための大切な道具なのです。

この魔法使いは、優秀な学校の先生だったようですが、自分が他人を支配しコントロールしたいという欲望を強く持ったために闇のエネルギーに引きずり込まれることになりました。

この魔法使いの反対側には、とても寒々とした雰囲気漂っています。

そこにいるのは、真っ白な雪のような色をした魔法使いです。

彼の魂はあまりの孤独のあまり、愛を奪い続けようとしています。

近くに来る人がいれば、彼の魔力によってすぐに捕えられてしまい、彼に奉仕し続けます。

彼はいくら愛を与えてもらっても、その凍りついた心を溶かして満足することはないようです。

まさに愛の亡霊といった魔法使いです。

さすがに彼には、美魔女たちは近づきません。

私は、マスター・ウィザードコードの光を、彼に入れた後、太陽神アメンラーと愛の女神ラメールを呼び、この魔法使いを光で満たすようお願いすることにしました。

さて、ほとんどの魔法使い達に、光を送ってこれで終わりかなと思っていたら、一番奥にとても体の小さいホビットのような魔法使いがいることがわかりました。

この魔法使いは、見かけは小さいのですが、今までの3人のボスよりも桁外れに大きな力を持っているようです。

この魔法使いは、先ほど京子さんが見た女王と長い間行動を共にしていた魔法使いのようです。先ほどの女王も最初から、ネガティブな感情に捕らわれた女王であったわけではなく、最初はレムリアのスピリチュアル次元で、レムリアの人々の進化に深く関わり調和のある世界を指導していた女王のようでした。

この小柄な魔法使いは、その時代から女王のために、新しい種族を創る手伝いをしたり科学技術を駆使してレムリアの文明を進化させる働きをしていたようです。

しかし、レムリアの調和が崩れるにつれて女王と共に闇の世界に落ちていったようですが、それでもいつも女王のことを気にして、彼女を守っていたようです。

PART6 魔法使いにはめ込まれた遺伝子チップ

私はこの小柄な魔法使いのハートに手を当て、マスター・ウィザードコードの光を送りながら、この魔法使いが女王に寄せる暖かい気持ちが、私のハートの中に流れ込んでくることを感じています。

たとえ女王がどのような感情に捕らわれようが、女王が何を望もうが、ひたすら女王のために尽くしてきた魔法使いの悲しみが伝わってくるのです。

その時、魔法使いの背中にきらりと光るものを見つけました。

私は不思議に思い、宇宙の魔法使いを呼びます。他の魔法使い達も近くに集まってきました。

宇宙の魔法使いは、彼の背中からその金属片を抜き出すと、光にかざしています。

「TAKESHI さん、これは驚きました。

とても精巧に作られている遺伝子コードを変えるためのチップですよ。

こんなものが使われていたなんて信じられない。

このチップは、正常な遺伝子の働きを阻害して、その人の意識や感情をコントロールします。

これによって、魔法使い達は神聖さと正義感を失って、エゴと自己中心的な欲望に捕らわれていったのですが、それさえも誰かにコントロールされていたのです。」

「宇宙の魔法使いよ。

それは誰が作ったのですか、どのような目的のために、このチップを埋め込んだのでしょうか。」

「私に言えることは、普通のマスタークラスでは、このチップを作ることはできません。

私達よりもはるかに強力な知恵を持った存在が作ったことに間違いはないようです。

他の魔法使い達にもこのチップが埋め込まれている可能性がありますので、みんなで手分けしてこのチップを外しましょう。」

宇宙の魔法使いの言葉に従って、魔法使いやマスター達は、時を止められた魔法使いから遺伝子チップを取り除く作業に入りました。

私は、宇宙の魔法使いに尋ねました。

「このチップをあなたは以前も見たことがありますか、
どのようなことなのですか、私に教えてください。」

宇宙の魔法使いは目を伏せたまま考え込んでいます。

やがてすべての魔法使いから、遺伝子チップが回収されました。

ここはこれでひとまず、大丈夫でしょう。

私は、オリジンと相談して、彼らの傷ついた遺伝子を治療するために、ライトコード・ラボに彼らを運ぶことにしました。

私達の仲間の魔法使い達が、止めていた時を元に戻します。

時が動き始めた時、多くの魔法使い達が驚きの声を上げます。

今まで取り付けていたものが、ボロリと落ちたように彼らは正気に戻っています。

私は、彼らを前に話始めます。

「魔法使い達よ、どうか私の話を聞いてください。

皆さんは、今まで自分が行っていたことを覚えていますか。

皆さんは、ここにある特別な遺伝子チップを、体の中にはめ込まれ、誰かにコントロールされていました。

皆さんは、魔法使いとしての神聖な意識と愛の光を見失い、自分の利益と欲望のためだけに活動していたのです。

私達は、皆さんをコントロールしていた遺伝子チップを外しました。

そして、神秘の世界に隠されていた「レムリアのウィザード・コード」の光を皆さんのハートの中に灯しました。

これは、魔法使いの皆さんが、より完全な魔法使いになるための進化のエネルギーを秘めていたコードです。

しかし皆さんが、この不思議な遺伝子チップのために、正気を失い、神聖さと愛の世界から遠く離れてしまったために、このウィザード・コードは使われることがありませんでした。

しかし、皆さんは、ここにいる多くのマスターや魔法使い達の手によって、神聖なる魔法使いとして再び甦る事ができました。

私は、皆さんの遺伝子の傷を修復して、更に優れた魔法使いや賢者に変えていこうと思います。

どうか、私を信じて治療を受けられてください。」

多くの魔法使い達が歓声を上げます。

彼らは自分たちの身に起こったことを理解したようです。

近くにいる魔法使い同士で抱き合っただけで喜んでるようです。

私はこの後を、オリジンに頼んで次の仕事に取り掛かることにします。

女王の事が気がかりです。

女王の元にはいち早く京子さんが向かっています。

女王の周りを取り囲んでいる魔法使い達が、全ていなくなったので女王も何が起こったのかと怪しいでいることでしょう。

京子さんは、女王様を安心させるために大芝居を打つことにしたようです。

「女王様、私は魔法使いの京子と申します。

実は女王様のために、素晴らしい新たな王冠を作りました。

今まで以上に女王様を輝かせ、その美しさと素晴らしさをたたえるために、パーティの準備をしております。

ここにいた魔法使い達も、全て女王様を迎えるために、パーティや贈り物の準備をしております。

準備ができましたら、ご案内いたしますのでしばらくお待ちください。」

京子さんはそのように言って、女王様と他愛もない話をしながら、私達の仕事を終わるのを待っています。

手が空いた魔法使い達は、急いで別の場所にパーティの準備をしています。

美しい花を飾り、おいしそうな果物やお菓子を並べています。

こちらの魔法使いの処理が終わったところを見計らって、京子さんは美しい馬車を呼び出します。

そしてその馬車に女王を載せると、私達が待つパーティ会場へと移動します。

先ほどとは異なって、こちらはとても美しく華麗な感じがする会場です。

私も、マスターらしく美しい服装に変えて、女王様に差し上げるシトリンとオリハルコンでできた王冠を持っています。

そしてその中には、マスター・ウィザードコードをはめ込んであり、創造主エンソフの光を満たしています。

私は、会場の一段高いステージで、王冠を持って女王様を待ちます。

私の前に、女王様が現れ、ステージの上に置かれた黄金色の椅子の上に座ります。

女王様は、特別な王冠がもらえるということでとてもうれしそうにしているようです。

私は恭しく女王様に近づくと、横から王冠を女王様の頭の上に載せます。

そして、黄金色の光のマントを女王様の肩にかけます。

このマントには、愛の女神ラメールと太陽神アメンラーの愛と浄化の光が織りこんであります。

王冠をかぶりマントを誇らしげにかけた女王様の顔が一周にして歪み、女王様が悲鳴を上げます。

会場が熱いエネルギーで満たされてきます。

ステージの下にも、巨大な神聖幾何学が描かれていたようです。

ステージの床やステージ上の空間に特殊な浄化のための神聖幾何学が輝き始めます。

すると彼女に取り付いていた黒いエネルギーが、彼女の体から浮かび上がります。

近くに待機していた魔法使いやマスター達は、彼女に向かって神聖なる光を送ります。

彼女の体から黒いエネルギーが出ていく様子が見えます。

そのエネルギーが大空に向かって放たれていくと、宇宙の魔法使いは、そのエネルギーを追いかけていきます。

きっと、何かを調べるために、エネルギーをとらえずにその後を追っているようです。

おそらくあのチップを作り出した犯人を見つけに行っただのかもしれない。

私達は、床に倒れた女王様を抱き起し、椅子の上に座させます。

女王様は、あまりのショックに気を失いかけています。

そこに京子さんが、特別な聖水を杯に入れて持ってきます。

女王様は、その神聖なる水を飲み干すとようやく落ち着いたようにため息をつきます。

「私はいったいどうしたのかしら、今まで深い霧の中をさまよい続けていた気分です。

はるかな過去の記憶はあるのですが、最近の事は何も覚えていません。

私はなぜここにいるのですか。」

私は、女王の前に座り、女王の目を見つめ言います。

「女王よ、心配なさらないでください、あなたは、しばらくの間眠りについていました。

そしてあなたの人格を使って、誰かがあなたをコントロールしていただけです。

あなたの魔法使い達も、誰かにコントロールされて、我を忘れて行動していたのです。

でももう大丈夫です。

魔法使い達も、やがて元気になって戻ってきます。

どうか心と体を休めるために、あなたの宮殿に戻って、ゆっくりとお風呂にでも入ってください。

この京子がお供をします。」

勿論、女王様がお風呂に入っている間に、例の遺伝子チップを探し、彼女の体から抜き取る目的があることは言うまでもありません。

PART8 黒い羽を持った天使

私達が、女王様をお城に送った後に、しばらくして宇宙の魔法使いが誰かを連れて戻ってきました。

見ると黒い羽を持った天使のようです。

宇宙の魔法使いは、女王から抜け出た黒いエネルギーを追いかけて、今回の事を仕掛けた犯人を見つけにいった模様です。

宇宙の魔法使いが連れてきた黒い羽を持つ天使の姿に、魔法使い達の緊張が伝わってきます。

通常の天使達とは全く異質のエネルギーを持つ天使です。

自分自身のエゴに溺れてしまったのでしょうか、とても大きな憎しみのエネルギーを周りにはなっています。

私は、天使達の上位存在であるウイングを呼びました。

その中に黒い羽を持ったウイングがいて、私の前に進み出ます。

「TAKESHI さん、そして魔法使いの皆さん、大変ご迷惑をかけてしまいました。

私達、黒い羽を持つ天使族は、地球のコアの部分にあるネガティブなエネルギーを浄化し循環させることが役目です。

地球は特別な星で、多次元におけるマカバのような特質を持っていますので、多くの存在達はその特異なコアを狙って、様々な攻撃を仕掛けてくるのです。

それを防ぎ、地球のコアを守護するのが私達の役目だったのです。

私は自分の分身を生み出し、地球のコアを守護しようとしたのですが、彼がネガティブなエネルギーに逆にとらわれてしまい、私と別人格になって暴走してしまったのです。彼は、自ら闇の中に落ち、私達との連絡が途絶えてしまいました。しかし、皆さんのおかげで、彼と再び会う事ができました。」

宇宙の魔法使いが、私達に説明してくれます。

「今回の事は、黒い翼をもつ天使が、ネガティブなエネルギーの処理を行っているときに、そのエネルギーによって感化され、自らの理性を失ったことが原因です。

彼はネガティブなエネルギーの影響を受け支配欲に満ち溢れていました。

その為に、魔法使い達を、自分の手足として利用する目的で遺伝子チップを埋め込んでいったようです。

彼は、もともと天使を超えたウイングの一部なので、とても大きな力と知識を持っていましたが、それが災いしたようです。

どうか、彼を許し、彼のスピリットを浄化してください。」

黒のウイングと創造主エンソフに続いて愛の女神、黄金の女神、アメンラー達がここに降り立ってきました。そして、闇に落ちた黒い羽の天使を囲むようにして光を送り始めます。

天使のハートにどんどん光が満ち溢れていきます。

彼が金色の光に満たされると、黒のウイングと一つに重なり合っていきます。

黒のウイングは、彼の光を、自分の光の中に呼び寄せるようにして、彼との統合を図ります。

黒い羽を持った天使の姿が消えました。

この時、天使の星の長老からも、感謝のメッセージが届きました。

きつと、天使の星の長老も、この黒い天使の事をとても心配していたのでしょう。

しかし、闇に落ちた魔法使いもこれですべてがもとに帰ったというわけではなそうです。

同じ地球の中でも、異なる次元、異なる時間にも彼らは、まだ存在していますし、天の川銀河にも、はるかに巨大なパワーを持つ魔法使い達が、その姿を隠しているようです。

第8章 アトランティスの遺伝子活性化のためのコード

PART1 アトランティスの街とその女王

今回起こった事は、まだサポートアチューメント中の舞さんのアチューメントを行っていたときの事でした。彼女と行っていたのは、「アーネスト」のアチューメントだったのですが、アーネストのクリスタルの中に入った後に出た世界は、アトランティスの時代に存在した一つの街の上でした。

私達は、大きなにぎやかな街を上空から見えています。

町の人達は賑やかで楽しそうです。

私達は町の中心にある宮殿に入っていました。

宮殿の中では、多くの人達が賑やかで楽しくふるまっています。

仕事をしている人もいれば食事をしたり歌ったり踊ったりして楽しんでいる人もいます。

しかし宮殿の奥にある部屋では、その宮殿の女王がとても悲しそうな表情を見せています。

私達は、その部屋に降り立ちます。

私達が、急に部屋に降り立った様子を見て女王はとても驚いていますが、舞さんの姿をみて、何かを理解したようでおちつきました。

私は女王に尋ねます。

「女王よ、初めまして、私達は、はるかな未来からここにやってきました。

私達は、この舞さんのエネルギーによってここに導かれたのです。

おそらくあなたと舞さんが深い関係にあるのではないかと思います。

しばらく私達に時間をお与えください。」

女王は、私達に向かってうなずくと、

「私も彼女をみて、他人とは思えない感じがしています。

ようこそこの世界に来てくださりました。」

「女王よ、この宮殿はとても賑やかですが、なぜあなたはそのようなさびしそうな表情をしているのですか。」

女王は深くため息をつきました。

「ここにいる人達は、やがてアトランティスが崩壊する事をまだ知らないのです。

近いうちにアトランティスは、大きな津波と共に海の底に沈んでしまいます。

彼らは一瞬の内に波にのまれて命を失ってしまうのです。

私にはそれが分かっているのですが、そのことを皆に伝えたほうがよいか悩んでいます。

彼らにその事を伝えると、町中がパニックになってしまい混乱してしまいます。

そのことを伝える勇気が、私にはないのです。

津波が、もし起こったら多くの人達の命が失われることでしょう。」

私はその時、この時代は、アトランティスが崩壊する直前であることを知らされました。

「女王よ、あなたの苦しみも理解できます。

しかし、アトランティスの最後の時には、私達がアトランティスのために救援に入ることをご存知ですか。確かに、アトランティスは大きな津波や地震によって海の底に沈みました。

それは変えることができない事実ですが、私達は崩壊の前に、アトランティスへ向かい、多くの天使や他の星々のマスター達と共に救援に入り、多くの人々を助けることができました。

勿論すべての人を助けることはできませんでしたが、新たなアトランティスが生み出されるには十分な人々は助けていると思います。」

女王は、とても驚いた顔をして私達を見えています。

では、女王よ、私達と共に来てください。

私は、宇宙船のフェニックス号を呼びます。

女王も舞さんもフェニックス号に乗るのは初めてなので驚いています。

フェニックス号に乗ると、舞さんのハートの中に、豪華客船の部屋みたいな光景が映し出されます。

舞さんも驚いて「すごいです！」と叫びます。

私は、フェニックス号の窓から外を見るように2人に伝えます。

その日は、アトランティス大陸を津波が襲う日ですが、私達はその前の夜に闇にまぎれてアトランティス大陸の町に近づいています。

天の川銀河連合の騎士団や他の星々からサポートに来てくれたマスターと多くの宇宙船が上空に待っており、選ばれた人達をどんどん宇宙船の中に運び込んでいます。

人々は、救出の事を知らされていなかったために、少々混乱しているようですが、おとなしく指示に従い、宇宙船の中に運ばれていきます。

しばらくすると、アトランティス大陸が、地震によって大きく身ぶるいをするように動きます。

そして、大きな津波がアトランティスを襲います。

多くの建物や木々がなぎ倒され、アトランティスの街が崩壊していきます

津波に飲み込まれる町の姿を見て女王も涙を流しています。

PART2 新たなアトランティス

私達は、多くの宇宙船と共に、もう一つのアトランティスの世界へ入ります。

そこは、この崩壊を予測して作られたもう一つのアトランティスのようです。

宇宙船が次々この地に降り立ち、アトランティスから助け出した人々を、新しいアトランティスの町に降ろしています。

マスター達が、降り立った人達と話をしたり街の中へと案内しているようです。

マスター達は、あらかじめアトランティスが崩壊する事を予測して、もう一つのアトランティスを準備していました。

この世界は、アトランティスが崩壊する原因となった自己中心的な支配欲や物欲等とは異なる世界のように

す。

この世界に来ることができた人は、きっと純真な魂を持っている人達だったのでしょう。

この世界を見た女王様はとても喜んでいます。

私達に何度も、お礼を言っています。

私は気になってこの新たな世界のマスターを呼び出しました。

すると驚いたことに、マスターアーサーが、私の前に現れました。

「マスターアーサーよ、なぜあなたがここにいるのですか？」

「TAKESHI さん、あなたもやがてはこの世界に来てくれると思っていました。

私は、地球の歴史において、いくつもの時代や次元に現れていますが、ここもその一つです。

ここでは、アトランティスが育ててきた素晴らしい叡智や技術が保存されています。

大きなアトランティスは、皆さんがご覧になったように崩壊してしまいましたが、私達はそのことを予測して、あらかじめ新たなアトランティスを準備しておりました。」

「そうだったのですか、それはよかった。

私達も、素晴らしいアトランティスの叡智がどのように保存されているか気になっていたのです。

マスターアーサーよ、私達がこの世界に来たということは、私達が現在行っている活動と何か関係がありますか。」

「もちろんです、ここにはアトランティスが大事に育ててきた大切な設備とライトコードがあるのです。それをぜひ持ち帰っていただかなければなりません。」

マスターアーサーは私達をとて高い塔のような建物へと案内してくれました。

PART3 アトランティスのライトコード・ラボ

私達が、向かったところは、現代的な高層建築のようなビルです。

とても高度な技術を誇るラボのような感じです。

私達は、中に入ると今まで見てきたのどかな町の風景とは全く異なる雰囲気の研究所の様子を驚かされます。

「ここも遺伝子に関わる研究所ですか。」と私はマスターアーサーに尋ねます。

マスターアーサーは、私達に向かってにっこりと笑って答えました。

「そうです。

ここでは、アトランティス文明が築き上げてきた遺伝子に関わる研究を更に発展させています。

アトランティスでは、遺伝子の研究は、時の権力者によって悪用されてしまいましたが、ここではそのようなことがないように厳重に管理されています。」

「そうですか、あなたがここにいてくださるだけでも安心です。

私達が、持ち帰る遺伝子のライトコードはここにはありますか。」

「もちろんありますよ。」

アーサーはそういって、私達を一つの部屋に案内してくれました。

その部屋で研究されていたものは、活性化されたライトコードや遺伝子の進化を早めるためのライトコードです。

私達が、新たな種族としてどんどん成長していくときに必要なライトコードや遺伝子を、より早く活性化させ、進化を早めていくためのものです。

「そしてもう一つ大切なコードと装置があります。」

マスターアーサーが指示したものは、丸い球体のようにになっているカプセルでした。

そしてその横には、金と銀の粉が入った箱があります。

「アーサーよ、この機械はなんですか？」

「この機械は、このラボの独自のもので、遺伝子の構造をより強固なものにし、複合遺伝子の機能を高めるためのものです。」

複合遺伝子とは、マスター・ウィザードコードや太陽種族のコードのように、いくつもの遺伝子やライトコードが組み合わされた遺伝子、もしくはコードの事を言います。

大きな働きをする遺伝子やライトコードは、いくつもの重要な遺伝子やコードが組合わせられているために、その働きに問題が出やすくなります。

また遺伝子やコード自体の相性によって働きが異なってきますが、それらの問題を解決し複合遺伝子の働きを良くするのが、このアトランティスの装置のようです。

「TAKESHI さん達がここ来てくれてよかった。」

皆さんが作ってくれたライトコード・ラボも素晴らしいのですが、どうしてもこの装置が必要なのです。

この装置と金粉は、ここにしかないので、取りに来る必要があったのです。

あなたが、ここに来たことで、このラボと皆さんのラボが光でつながりますので、この装置を運ぶことができます。

帰る前に、この装置を試していかれませんか。」

私達は、少し不安を覚えながら、言われた通りカプセルの中に入ります。

カプセルの中に入ると、私達の体は宙に浮いたようになり、ゆっくりと回転を始めます。

カプセルの中には、金と銀の粉が舞い踊り、まるで、金色と銀色の光の中で、体が漂っている感じです。

そのあまりの気持ちよさに、私達は眠くなりました。

しばらくして機械が止まると、私達はカプセルの中から出てきます。

金と銀の粉は、私達の体の中に吸収されていったようで、体が光輝いて見えますし、とても軽やかに感じます。

「TAKESHI さん、いかがですか。」

もうすでにあなたの中には、マスター・ウィザードコードやエンジェル・コードなどがたくさん入っていますから、それらのコードが今以上に活性化して、より良い働きをするようになることと思います。

この機械は、私が運んでおきますので、アトランティスの女王を一度、前の世界へ戻してきてください。」

私は、その言葉に、まだアトランティスの女王と共に居ることを思い出しました。

彼女も、この世界に来たことがとてもうれしくと、一緒にカプセルの中に入って楽しんでいたようですが、考えてみれば、彼女をアトランティスの世界に戻してあげなければなりません。

私達はフェニックス号に戻り、再び彼女の世界へと向かいました。

女王は、以前のような悲しい顔をしていません。

何かが吹っ切れたように明るい顔をしています。

「TAKESHI さん、そして舞さん。

あなた方に会えて私はとても幸福でした。

私は、私の歩むべき道をしっかりと歩んでいきます。

最後まで女王として、しっかりとふるまいます。

また皆さんと再び会えることを、私は願っています。」

女王は、少し静かになった夜の宮殿の中に、姿を消していきました。

私達も帰る時間です。

フェニックス号に乗って、私達の時代に戻ってきました。

第9章 クリスタル種族とクリスタル・コード

PART1 遠い過去に生きていたクリスタル族

今回、私達にとってとても大切な事についてお話いたします。

それは、この宇宙の中でも最高度の秘密であるクリスタルの種族の事です。

クリスタルの種族とは、これまでに数回コンタクトをとりましたが、最初は、水星の宇宙言語図書館に行ったときの事でした。

私は、宇宙言語図書館のマスターから、多くの宇宙種族と話をすることができるようになるチャネリング・コードというものをいただきました。

この時、マスターはチャネリング・コードが最高度に活性化されてくると、目の前にいるマスターや離れた場所にいる宇宙のマスター、他の星の人達だけでなく、時を超えた世界にいるマスター達の話もチャネリングできるようになることをお聞きしました。

図書館のマスターは言います。

「たとえば、ここにクリスタルがあります。

あなた方は、このクリスタルを通して、遠い過去にさかのぼり、かつて存在していたクリスタル族とコンタクトをとることもできます。

クリスタル族は、すべての宇宙の叡智や情報を管理していた種族でしたが、ある時期、皆さんが現在見ているような結晶化したクリスタルに変わってしまいました。

しかし、このチャネリング・コードが、活性化してくると、遠い過去のクリスタル族とも会うことができます。」

私は、クリスタル族というものが、存在していたことに驚かされます。

結晶化されたクリスタルの中にはたくさんの情報やエネルギーが入っていることは知っていましたが、それは誰かが、このクリスタルの中にそれらの情報を入れていたのだと思っていましたが、もともと、クリスタル族と呼ばれる存在がいて、彼らが持っていた情報が、このクリスタルの中に閉じ込められたということのようです。

「マスターよ、教えてください

どうしてクリスタル族は、この結晶化したクリスタルになってしまったのですか。」

「それは非常に難しい問題ですが、このようにお考えください。

かつてクリスタル族は、そのあまりの高度なエネルギーのために、とても高い次元に存在していました。その次元を支えていたのは、白い魔法使いと呼ばれる存在で彼らが作る次元の結界の中でクリスタル族は存在していたのですが、ある時、他の魔法使いからの攻撃によって、その結界は崩壊してしまったのです。その為に、クリスタル族の世界は次元を降下してしまい、3次元まで落ちたクリスタル族は、そのままの姿で生きることができなくなり、結晶化してしまったようです。

勿論、結晶化しても、彼らの叡智はクリスタルの中で守られていますので、チャネリング能力が発達している人は、その情報を読み取ることができるというわけです。」

私は、図書館のマスターから初めて聞くクリスタル族の事について驚くとともに納得してしまいました。確かに、私もクリスタルとよくおしゃべりして、様々な情報を得ることがあります。その時、クリスタルがまるで生きているように感じる事が何度もありました。もしクリスタル族というものが、クリスタルの元となっているのであれば、それも納得できます。

私は、マスターに誘われるままに、クリスタルの中を通過してクリスタル族の世界に入っていく事にしました。私達は、クリスタルの中の時間をさかのぼり、遠い過去の時代に来たようです。クリスタルから出ると、白い霧の世界です。私達は、霧の中を進むと神殿のような建物が見えます。そこに入ると何かゆらゆらと揺れるような存在がいます。私達が意識をその存在に向けると心の中に声が聞こえてきます。「ようこそ、クリスタル族の世界へ、あなたが来てくださることを待っていました。」

私は初めて会うクリスタル族の人に挨拶を行います。「初めてお会いします、あなた方のような偉大な種族の方にお会いできてうれしく思います。」「いえ、あなたとはいつも会っているではないですか。あなたの部屋の中にも、沢山クリスタル族が存在していますよ。」え！と私は思いますが、考えてみたらその通りです。私の部屋にある巨大クリスタル達こそ、クリスタル族が姿をかえたものにほかならないわけですから。

「確かにそうですね、私はいつもクリスタルとコンタクトを取っていましたが、それがあなた達だったのでですね」「もちろんそうです、今回皆さんの前に姿を見せるのは、まさに皆さんがすでにクリスタル族とつながっているからです。クリスタル族は、注意深いので、クリスタルの事を理解し大切にしてくれる人の元にしか現れません。」

その後、私はしばらく会話をした後、クリスタル族の世界を後にして帰ってきました。初めて、あったクリスタル族に、私はとても興奮していました。

PART2 クリスタル族の神殿へ

次にクリスタル族と会ったのは、12月18日に行われた「智クン」とのアチューメントで、ハデスの神殿に行ったときの事でした。ハデスの神殿を次元上昇した時、ハデスの神殿の奥の間に行くと、そこに巨大なクリスタルが浮いていました。その大きさと美しさに私達は驚きました。ハデスが、クリスタルを指さしながら言いました。

「このクリスタルと魔法の力で、レムリアを宙に浮かせる予定だったのですが、それも夢となってしまいました。

しかしこのクリスタルは、ハデスの神殿の動力源として動いていますし、このクリスタルはクリスタル族の神殿へともつながっていますので、クリスタル族の豊富な知識や高次のエネルギーを呼び寄せることもできます。」

私達は、先日クリスタル族の人達と会ったばかりですので、クリスタル族の世界にはとても興味があります。私達は、クリスタル族の世界へ少しだけ入ってみることにしました。

レムリアの特別なクリスタルですから、その繋がっている先もよほど高次元の世界かもしれません。

ただし、ここは私達が生きている時代よりもはるかな前の時代にあたるようです。

クリスタルの中を通り抜けると、霧がかかった世界です。

そしてその奥には以前来た場所と異なる立派な神殿が立っています。

そして、私達はそこで、クリスタル族の人とお会いしたのです。

私達は、確かにクリスタルとクリスタル族の世界がつながっていることを確認して、今日は終わることにしました。

次回時間のある時にクリスタル族ともっと話をしてみようと思います。

大天使のアチューメントの時に、私達はクリスタル族の神殿へと向かうことにしました。

私達は、その日、アチューメントを行った大天使ウリエルと共にクリスタルの中をとおって、クリスタル族の世界へと入って行きました。

大天使ウリエルは、宇宙の神聖な法則を管理する大天使ですから、今回の案内役に最適な存在です。

私達は霧の世界を抜けて、クリスタル族の神殿へと入ります。

そこに待っていてくれたのは、今まであったクリスタル族の人達よりも、さらに威厳があり美しい光を持つクリスタル族の王様のようです。

私は、キングに向かって挨拶をします。

「偉大なるクリスタル族のキングよ、私達をお導きくださりありがとうございます。」

どうか、私達にクリスタル族の事について詳しく教えてくださいますようお願いいたします。」

クリスタルのキングは、私達をもてなすようにこやかにほほ笑むと話始めました。

以下は、私のリーディングでご紹介いたします。

TAKESHI さん、そして智さん、私達の世界によろこそいらしてくださいました。

再び、地球に生きる皆さんと私達が、共にお話ができる日がやってきたことを私達は、とてもうれしく思います。

私達クリスタル族は、はるかな昔から存在しておりました。

この宇宙の中でも最古の種族の一つであり、様々な叡智ある創造主やマスター、天使達にも私達の遺伝子と資質は受け継がれております。

勿論皆様の中にも、クリスタル族の遺伝子が時を超えて大きく刻まれています。

あなた方に刻まれている遺伝子によって、私達ははるかな時を超え、クリスタル族と人類の新たな絆を結ぶように約束されているのです。

そしてその約束を果たしてくれるために皆さんがここにやってきてくれた事を心から嬉しく思います。

私達は、古い時代から様々な叡智や情報を取り扱う種族でした。

私達が持つ膨大な記憶力や情報の保存力は、他の種族とは比べ物にならないほど大きく高度な物でした。私達の種族は、偉大なる創造主が行う宇宙の創造の過程をすべて記録するために生まれてきたといっても過言ではありません。

その為に、私達は特別な聖域で守られ、他の種族との交流を禁じられていました。

勿論、必要な種族やマスター、そして叡智ある存在達のなかで私達の情報を受け取る資格のある人や私達の情報を活用する必要がある人は、私達の神殿に招かれ、そこで叡智や情報を渡されていたのです。

私達の神殿には、いくつもの種類がありました。

様々な宇宙言語に関する情報や生命の成り立ち、動植物の遺伝子構造などから、星の成り立ちや宇宙の創造の仕組みなど、情報の高度さや重要性によっていくつもの段階に分けられ、それに対応する神殿とクリスタル族のマスターが存在していました。

私達は、誰もが勝手にこの聖域に入らないようにするためとクリスタル種族の高次のエネルギーを保つために、魔法使い達によって守られていましたが、ある時、私達を守護する魔法使い達が攻撃を受けて、私達の聖域は壊されてしまいました。

その為に、多くのクリスタルの神殿とクリスタル族は、地球の3次元に落下してしまいました。

地球の3次元は、私達が今までいた世界と比べてとても波動が荒々しく、私達はそのままでは存在することができなかつたので、多くの仲間達は、結晶化という方法をとることとなりました。

結晶化というのは、今皆さん達がお持ちのように、鉱物としてのクリスタルになるということです。

私達は、そのようにして自分達と自分達が持っている情報を守ることにしたのです。

時々皆さんのようにクリスタル族の遺伝子を少しでも持っている人達は、結晶化したクリスタルとも親和力を持つので、結晶化したクリスタルの情報とクリスタルの意識にアクセスすることができます。

結晶化したクリスタルには、クリスタル族の意識がまだ宿っているのです。

勿論、全ての人がある情報や意識とつながれるわけではないのですが、クリスタルの意識が心を許した人であれば、クリスタル族はとても有意義な情報とパワーをその人に授けることができます。

クリスタル族には、3次元に落ちて結晶化した者達とは別に、運よくさらに高次の次元へと逃げることもできた者達もいました。

それはクリスタル族たちの中でもより高次の情報とパワーを扱っていた者達でした。

彼らは自分の力で、すでに次元を移動する能力を身に着けていたからです。

高い次元に移動したクリスタル族は、地球に落ちて結晶化したクリスタル族達をなんとか助け出そうとしましたが、あまりにも次元が異なるのでそれもできませんでした。

しかし、皆さんが、初めて地球の3次元とクリスタル族が今でも存在する高次の世界をつないでくれたのです。

そして地球にも、とても高い波動を持つ次元が存在し始めています。

皆さんがクリスタルのエネルギーを使用して地球の波動を上げてくださった事も大変素晴らしいことです。私達は、高次のクリスタル族の世界と高次の地球の次元の間に光の通路をつなげたいと思います。私達は、地球で結晶化したクリスタル族たちに、もっと力を与えたいと思っていますし、皆さんのように、クリスタルの事を深く理解する人達に、クリスタルの神聖なる力をもっと活用していただきたいと思っています。

最近皆さんのように、クリスタル族の遺伝子を持ち、クリスタルの波動を持つ人達も増えてきています。また、地球のエネルギーも上昇し、私達の事をサポートしてくれる素晴らしい魔法使い達も増えてきましたので、私達が力を合わせることで、この地球を舞台として、さらに素晴らしいクリスタル族と人間との関係が生まれてくるのではないかと考えております。

その結果、新たなクリスタル族というものが生まれてくる可能性も出来上がってきています。

ここでもう一つ皆さん達に大切な情報をお渡ししておきます。

私達、クリスタル族は、様々な星との間にゲートを持っています。

そのゲートをとおって、私達のクリスタル・マスターが移動することでクリスタル族の情報や叡智が、その星々にもたらされています。

クリスタル族は、一つの場所にすべての情報を保管するのではなく、安全のためにいくつかの星々へ情報を分散して隠しています。

それが、各星々に伝わっている叡智のクリスタルであり、それを読み解くためのクリスタル・コードです。その叡智は主に、この宇宙の創造にかかわる事柄が、書き記してありますので、皆さんにとっても大変重要な情報になると思いますので是非アクセスしてください。

PART3 マスタークリスタル・コード

私は、キングの話を読みきいてクリスタル族の役目について理解することができました。

私はいくつかキングに質問をしていきます。

「キングよ、素晴らしいお話を聞かせてくださってありがとうございます。

いくつか教えてもらいたいのですが、このクリスタル族と人間の間にゲートができるということですが、このゲートはだれでも通れるようになるのですか。」

「いえ、クリスタルゲートは、常に守られています。

クリスタル族の神聖なる叡智を正しい方向に使う人でなければ、このゲートを通ることはできません。

クリスタル族にアクセスする資格というのは、皆さんがこの宇宙の事を真剣に愛することができるか否かということやクリスタルを大切に扱うことができるか、ということに関係してきます。

クリスタル族は、皆さんをいつも見えています。

そして、クリスタルの知識を活用できる人を見つけて、その人の元に届けられていきます。

その人が、届けられたクリスタルを大切に扱うことができれば、このクリスタルゲートを通る招待状が届けられることでしょう。」

「キングよ、ありがとうございます。

それから先ほど、各星々に隠されたクリスタル族の知識について言及されましたが、その情報を解読するためにはクリスタル・コードによって自分たちの能力を活性化する必要があるように言われましたが、それも本当ですか。」

「もちろんです。

クリスタルの情報はこの宇宙にとっても重要な情報がたくさんありますので、だれもがすぐに理解できるということではいけないわけです。

皆さんの言葉でいうと暗号のように、その読み方を知っている人だけがその内容を知ることができるようにならなければ、いけないのです。

その暗号を読み解く能力が、クリスタル・コードにあるということです。」

「キングよ、クリスタル・コードは、シリウスやプレアディスなどのようにいくつかの星々に点在していると聞きました。

しかし、他の星にあるクリスタル・コードは、その星に人たちは使用できても、人間が使用できないこともあるようです。

何か便利な方法はないのでしょうか。」

「そうですね、それではそれぞれのクリスタルの言語が読み解けるように、マスタークリスタル・コードを創りましょう。

このコードを使用することにより、どの星のクリスタルでも、その情報を読み解く事ができるようになりますよ。」

私達はキングにお礼を言って、どの星のクリスタルの情報も読み取ることができるマスタークリスタル・コードを作ってもらうことにしました。

キングは、空中からいくつもの光を出してくるとその光を神聖幾何学の形にまとめていきます。

しばらくすると、その中から美しい光が輝きはじめ、マスタークリスタル・コードが出来上がります。

「TAKESHI さん、これを持って行ってください。

あなたの中には、もうすでにいくつもの星のクリスタル・コードが刻まれているようなので、問題なく使いこなすことができるでしょう。

またあなたの仲間達も、クリスタルとは深い関係があるようなのでやがて、このコードを使いこなすことができるでしょう。」

「キングよ、ありがとうございます。

このクリスタル・コードの働きについて、もっと知りたいのですが教えてもらえませんか。」

「そうですね、実はクリスタル・コードには2種類あります。

一般的なクリスタル・コードはクリスタルの特性を理解しクリスタルの情報を読み解くことやクリスタルの知識を活用することなどです。

これはクリスタルの事を愛してくれる人ならば、どなたでも利用できるコードで、クリスタルのマカバのような形をしています。

そしてもう一つ高度なクリスタル・コードが存在します。

このコードは、一般的なクリスタル・コードでは見ることができない情報、特に宇宙の創造に関係した情報や知識、またその情報を使用して宇宙の創造に関するパワーなど、クリスタルの最高度の情報にアクセスできる能力がそこに秘められています。

このコードはクリスタルの114面体で表されており、その人の進化にあわせてどんどん変化していく事が特徴です。

つまり、その人が必要としている能力を生み出すために、クリスタル・コードも変容して新たな能力や情報を生み出すことができるようになるのです。」

キングはそう言って、私に渡したコードとは別の形をしたマスタークリスタル・コードを私達のスピリットの中に入れていきます。

これが、より高度のマスタークリスタル・コードであることは間違いないようです。

「クリスタルには、面白い働きがあって、ある存在達がクリスタルを使用して特殊なヒーリング技術などを確立するとその情報をクリスタル族たちに教えることがあります。

そのような有意義な情報は、クリスタル種族たちに伝えられ、他の物と融合されたりしてさらに高度な物へと進化していきます。」

キングは、私達にうれしそうに話してくれます。

クリスタルを使用したヒーリングやエンパワーメントなどの方法が確立されていくことがとてもうれしいようです。

「TAKESHI さん、今日の話はこれくらいにしましょう。

どうか皆さんが、クリスタルを使ってクリスタルゲートをくぐり、私達の世界へ来てくださることを待っています。

皆さんが、クリスタルの中に入ると、皆さんの波動や意識によってもっともふさわしい場所へと行き着くことができますので、心配しないで楽しい旅を経験することができます。

さあ、皆さんの世界に帰って、クリスタル・ワールドのゲートが開かれたとお伝えください。」

私達は、新しく生まれたクリスタルゲートを通して、私達の世界に帰ってきました。

勿論、キングから頂いたクリスタル・コードを皆さんに届けるために。